

7 章

講義要綱



- 講義要綱には、絶版もしくは品切れとなった参考書も記載してあります。これは、「その参考書が学習上有益である。」と担当者が判断したものです。可能な範囲で図書館などで探して学習することをお勧めします。
- 講義要綱記載の指定テキストは、変更になる場合があります。『ニューズレター慶應通信』8月号の配布を受けてから購入してください。
- 開講科目の中には、授業時間外にパソコンの使用を想定しているものがあります。その場合は、担当教員より授業時に指示があります。

1 総合教育科目

3分野科目／人文科学分野

科目 論理学	2単位
担当 講師 杉本雄太郎	

〔概要・目的〕

この講義では思考、推論や論証が「正しい」とは一体どういうことなのか、また論理的に「正しく推論すること、すなわち「仮説や前提から、正しい方法で結論に到達する」ことについて、論理学の立場から解説します。そのために、論理学の基本体系の一つである「命題論理」について取り上げ、主に意味論と証明論という二つの側面から検討します。

〔目標〕

上記の意味論・証明論という論理学の二つの側面について、真理表による真理値分析および自然演繹体系を用いた証明という二つの方法を使って、推論の正しさを判定できるようになることが目標です。

〔講義形態〕

基本的には講義形式で行ないますが、実際に練習問題を自分の手で解いていくことにより、上記の二つの方法（真理値分析・自然演繹）を習得して頂きます。

- 〔第1回〕 導入－推論とは？ 論理学とは？
- 〔第2回〕 日本語文の形式化と形式言語
- 〔第3回〕 命題論理の意味論Ⅰ－真理表・真理値分析
- 〔第4回〕 命題論理の意味論Ⅱ－同値変形／真理値分析による推論の妥当性の判定
- 〔第5回〕 命題論理の意味論Ⅲ－恒真・矛盾・整合／真理値分析に基づく矛盾と整合性の判定
- 〔第6回〕 命題論理の意味論Ⅳ－トートロジー、推論の妥当性、命題のあつまりの整合性・矛盾という概念の間の関係／中間テスト
- 〔第7回〕 命題論理の証明論Ⅰ－推論の形式化／導入

規則と除去規則

- 〔第8回〕 命題論理の証明論Ⅱ－自然演繹の推論規則：連言・否定
- 〔第9回〕 命題論理の証明論Ⅲ－自然演繹の推論規則：条件法・選言
- 〔第10回〕 命題論理の証明論Ⅳ－自然演繹の推論規則：矛盾・背理法
- 〔第11回〕 命題論理の証明論Ⅴ－最小・直観主義・古典論理／自然演繹による矛盾の導出
- 〔第12回〕 総括－意味論と証明論の関係および試験

◆ テキスト

プリントを適宜配布する。

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

特別な知識は特に仮定いたしません。

◆ 成績評価方法

講義中に行なう中間テスト、講義最終回に行なう試験の成績、および平常点を総合的に判断して評価いたします。

科目 倫理学	2単位
担当 講師 吉田修馬	

「倫理」とは、もともと、人間がよく生きる上で大切にすべき物事のことであり、人間が社会の中で守るべきルールのことです。

倫理には、大ざっぱに言うと、「人間の理想の生き方」、「人間が社会で守るべきルール」、「善悪や正不正の判断基準」という三つの意味があります。

「倫理学」とは、そのような倫理について論じる哲学の一分野です。「哲学」とは、端的には、物事について根本的・原理的に考える、つまり、物事をつぎつ

めて考える学問です。

そこで、さしあたり、人間の生き方、社会のあり方、善悪や正不正の判断基準について、つきつめて考えるのが倫理学です。

本講義では、(1) 倫理学の学説や理論に基づいて、倫理的な問題や議論を「理解」すること、(2) 倫理的な問いについて、自ら「思考」することを目標にして、西洋倫理学史における代表的な思想家が何を問い、その問いとどう向き合ってきたのかを概観していきます。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 プラトンとアリストテレス
- 〔第3回〕 デカルトとホッブズ
- 〔第4回〕 ヒュームとスミス
- 〔第5回〕 モンテスキューとルソー
- 〔第6回〕 カントとヘーゲル
- 〔第7回〕 ミルとベルクソン
- 〔第8回〕 マルクスとニーチェ
- 〔第9回〕 サルトルとフーコー
- 〔第10回〕 ウェーバーとハーバーマス
- 〔第11回〕 ロールズとセン
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

・柘植尚則編著『入門・倫理学の歴史——24人の思想家』（梓出版社、2016年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

倫理学に関心があるかを歓迎します。予備知識は必要ありませんが、答えが簡単には見つからない問題について、「考え方や価値観は人それぞれだ」で終わるのではなく、粘り強く、かつ柔軟に考えることを厭わないかたを期待します。

◆成績評価方法

出席状況と、最終日の試験によって、総合的に評価します。

科目 芸術（美術）

2単位

担当 講師 林 克彦

古代から近現代にかけての西洋美術の様式変遷には一筋の連続性があり、その連続性は、抽象的で理念の表現を旨とする様式と具象的で現実の再現を志向する様式という両極、すなわち、二つの基本様式の間の絶えざる反動として見ることができます。中世から近世にかけて、西洋美術は、キリスト教の理念を象徴的に表現する形式主義的なものから、しだいに、空間、運動、陰影、雰囲気重視する自然主義的なものへと変化していきませんが、その変化を決定づけたのがイタリアのルネサンス美術に他なりません。16世紀初頭にレオナルド・ダ・ヴィンチ、ミケランジェロ、ラファエッロ等が完成させたいわゆる盛期ルネサンス様式は、その後19世紀まで続く古典的で自然主義的な近世美術の規範となりました。対するに、15世紀の初期ルネサンス美術の様式は、いまだ中世的な性質を色濃く残しており、先に述べた両極のちょうど中間に位置するものと言えます。その初期ルネサンスを代表する画家の一人がピエロ・デッラ・フランチェスカ（1412年頃～1492年）です。ピエロは近世絵画の基本的な特

質の一つである合理的な透視空間を完成させた数学者でもあった反面、彼の作品には、単純な形態、色面的な装飾性、不動性といった、中世絵画に通ずるようなアルカイックな要素も少なからず認められます。本講義では、このピエロ・デッラ・フランチェスカの諸作品の分析を通じて、西洋近世美術の様式変遷を決定づけたルネサンス美術の主要な造形原理について解説します。

- 〔第1回〕 美術史学の歴史と様式論
- 〔第2回〕 西洋美術における様式原理の変遷
- 〔第3回〕 ルネサンス美術における写実と理想
- 〔第4回〕 初期ルネサンス美術の透視画法と諸様式
- 〔第5回〕 ピエロ・デッラ・フランチェスカと透視画法
- 〔第6回〕 ピエロ・デッラ・フランチェスカの《聖十字架伝》
- 〔第7回〕 ルネサンスの壁画連作における叙述と構成
- 〔第8回〕 ルネサンス絵画における風景
- 〔第9回〕 ピエロ・デッラ・フランチェスカと北方絵画
- 〔第10回〕 ピエロ・デッラ・フランチェスカとヴェネツィア絵画
- 〔第11回〕 ピエロ・デッラ・フランチェスカと近代美術
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・森田慶一訳『ウィトルーウィウス建築書』（東海大学出版会、1979年）
- ・チェンニーノ・チェンニーニ、辻茂他訳『絵画術の書』（岩波書店、1991年）
- ・レオン・バッティスタ・アルベルティ、三輪福松訳『絵画論』（中央公論美術出版、2011年）
- ・ヴァザーリ研究会編『ヴァザーリの芸術論』（平凡社、1980年）
- ・ロドヴィーコ・ドルチェ、森田義之・越川倫明訳『アレティーノまたは絵画問答』（中央公論美術出版、2006年）
- ・ハインリヒ・ヴェルフリン、海津忠雄訳『美術史の基礎概念』（慶應義塾大学出版会、2000年）
- ・エルヴィン・パノフスキー、木田元監訳『〈象徴形式〉としての遠近法』（ちくま学芸文庫、2009年）
- ・ロベルト・ロンギ、和田忠彦他訳『イタリア絵画史』（筑摩書房、1997年）
- ・ケネス・クラーク、佐々木英也訳『風景画論』（ちくま学芸文庫、2007年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

出席状況と最終日の試験による。

◆成績評価方法

出席状況と最終日の試験による。

科目 文学

2単位

担当 文学部准教授 芦野文武

言語学の諸領域のうち、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の基礎概念をフランス語を例にとり解

説します。基本的に授業は講義形式で進めますが、練習問題も取り入れ、基本概念の理解の定着を目指します。例として用いる言語は基本的にフランス語ですが、折に触れて日本語をはじめとする他の言語にも言及したいと思います。

11回の講義を通じて、たとえ大雑把でも、フランス語学の全体像を提示することを目指します。

〔授業の概要〕

〔第1回〕 イントロダクション＋音韻論（1）

〔第2回〕 音韻論（2）

〔第3回〕 形態論（1）

〔第4回〕 形態論（2）

〔第5回〕 統語論（1）

〔第6回〕 統語論（2）

〔第7回〕 統語論（3）

〔第8回〕 意味論・語用論（1）

〔第9回〕 意味論・語用論（2）

〔第10回〕 意味論・語用論（3）

〔第11回〕 意味論・語用論（4）

〔第12回〕（最終回）試験および総括

〔その他〕 練習問題

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

主にフランス語を例として使うため、フランス語文法を一通り学習していることが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 近代思想史

2単位

担当 講師 篠原洋治

近代社会を、国家によって管理された市場経済に基づく市民社会と捉えることにはさほど異論はないだろう。多くの留保を必要とするものの、少なくとも先進諸国では、自由で平等な社会が少なからず実現されてきた。しかし他方で近代は、社会秩序維持のために「労働」を管理する権力が著しく発展し、社会の隅々まで浸透してきた時代であり（フーコー）、また、諸個人の「欲望」が、市場システムや科学的言説を媒介にコントロールされている時代である（ドゥルーズとガタリ）。この意味で、18世紀以降、諸個人の自由・自立をめざした啓蒙のユートピアは、逆に、自由を抑圧するある種のデストピアに陥っているといえないだろう。

か。本講義では「労働」と「欲望」の概念の再検討を通して、近代という時代の特殊性を浮き彫りにすると同時に、その諸問題の淵源を考察していきたい。

〔第1回〕 アレントによる労働、仕事、行為の分類

〔第2回〕 トマス・モアの『ユートピア』における労働

〔第3回〕 宗教改革における労働観の転換（ヴェーバー）

〔第4回〕 経済学の生誕と労働の格上げ（ロック、スミス）

〔第5回〕 啓蒙と労働の新しい意味付け（ヘーゲル）

〔第6回〕 労働と規律訓練権力（フーコー）

〔第7回〕 福祉国家と生命権力（フーコー）

〔第8回〕 奢侈批判のユートピア（フェヌロン、ルソー）

〔第9回〕 奢侈肯定と経済学的自由主義（マンデヴィル、ヒューム、スミス）

〔第10回〕 フーリエのユートピアにおける労働と概念の解放

〔第11回〕 資本主義社会における欲望と権力（ドゥルーズとガタリ）

〔第12回〕 試験と総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・坂本達哉『社会思想の歴史』（名古屋大学出版会、2014年）（市販書採用科目「社会思想史」テキスト、経済学部IV年度①配本）
- ・野地洋行編『近代思想のアンビバレンス』（御茶の水書房、1997年）
- ・太田義器、谷澤正嗣編『悪と正義の政治理論』（ナカニシヤ出版、2007年）
- ・マックス・ヴェーバー、大塚久雄訳『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』（岩波書店、1989年）
- ・ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫、1994年）
- ・ミシェル・フーコー『監獄の誕生』（新潮社、1977年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

授業において質問をするなど積極的に参加することを期待する。

◆成績評価方法

出席状況、授業での積極性、最終日の試験により総合的に評価する。

3分野科目／社会科学分野

科目 法学（憲法を含む）

2単位

担当 講師 高田久実

現代社会における日々の生活が、「法」の存在を無視して成り立つものでないことは周知の事実であろう。そのような「法」をめぐる知見を深めるため、法学を学ぶ基盤を形成することが本講義の目的である。法

律学を理解するうえで基本的かつ重要な論点を考察することにより、法的な知識および思考の獲得を目指す。

〔第1回〕 開講にあたって・法律学に関する基礎文献について

〔第2回〕 「六法」の利用・法令の構造・難読難解法律用語

〔第3回〕 法令用語をめぐって・法律格言

〔第4回〕 法規範および法存在の根拠をめぐる学説

- 〔第5回〕 法源（法の存在形式）—成文法と不文法
- 〔第6回〕 わが国における成文法
- 〔第7回〕 わが国における不文法
- 〔第8回〕 法の種類①
- 〔第9回〕 法の種類②
- 〔第10回〕 法の効力
- 〔第11回〕 法の解釈と適用
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・霞信彦『法学講義ノート〔第6版〕』（慶應義塾大学出版会、2016年）

◆参考文献

- ・霞信彦編『法学概論』（通信テキスト、2015年、文学部・経済学部Ⅱ年度配本）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講者には積極的に六法を引き、法律に親しんでもらいたい。ただし、「六法」については初回講義においてガイダンスをおこなうので、その後の購入をすすめる。

◆成績評価方法

講義最終日に筆記試験を実施する。出題形式等については、講義中に指示する。

科目 政治学

2単位

担当 講師 慶 済姫

本講義の目的は、政治学の理解のために必要な基礎的な概念を習得することにあります。本講義では、政治学における基礎的な原理、政治構造、政治的作動などを説明する上、講義内容に基づき、現実が生じている政治的現象を解説します。学生が政治学における基本的な概念を理解する上、政治現象の分析能力を得て、望ましい政治の志向点が提示できることを狙います。

- 〔第1回〕 オリエンテーション
 - － 政治とは
 - － 政治学的主要分野
 - － 本講義の構成
- 〔第2回〕 政治権力・政治文化・政治社会化
- 〔第3回〕 政党・利益団体
- 〔第4回〕 選挙・投票行動
- 〔第5回〕 政治体制
- 〔第6回〕 行政・官僚制
- 〔第7回〕 地方政治
- 〔第8回〕 国際政治
- 〔第9回〕 経済と政治
- 〔第10回〕 福祉と政治
- 〔第11回〕 ジェンダーと政治
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 経済学

2単位

担当 講師 北條陽子

本講義は、経済学の基礎知識を学ぶための科目です。経済学には大きく分けてミクロ経済学とマクロ経済学とがあり、それぞれの入門的な内容を解説します。

経済学部を受講生には、今後専門的な内容や応用分野を学んでいくために不可欠となる土台作りを、他学部を受講生には、経済学的な考え方に触れて経済学に興味を持って頂くことを目標としています。

- 〔第1回〕 はじめに・市場について
- 〔第2回〕 需要と供給
- 〔第3回〕 需要の価格弾力性
- 〔第4回〕 消費者行動と生産者行動
- 〔第5回〕 市場メカニズムの効率性と限界
- 〔第6回〕 国民経済計算
- 〔第7回〕 物価の変動
- 〔第8回〕 マクロ経済における需要と供給
- 〔第9回〕 財市場—乗数効果
- 〔第10回〕 貨幣市場
- 〔第11回〕 財政政策と金融政策
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・伊藤元重『入門経済学〔第4版〕』（日本評論社、2015年）
- ・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学Ⅰミクロ篇〔第3版〕』（東洋経済新報社、2013年）
- ・塩澤修平・北條陽子『基礎から学ぶミクロ経済学』（新世社、2010年）
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門〔第5版〕』（有斐閣、2016年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会学

2単位

担当 文学部教授 稲葉昭英 / 文学部教授 織田輝哉

前半では、社会学の理論の基本的な考え方を理解するために類型論、社会システム論、役割論、社会的ネットワーク論などの諸理論とそれを用いた分析例を示す。

また後半では、社会学理論の重要なトピックスとして、予言の自己成就、社会的ジレンマ、逸脱行動論、組織と人間、社会秩序の形成というテーマを取り上げ、複雑な社会現象をいかに学問的にとらえるかを論じていく。

- 〔第1回〕 社会学の考え方
- 〔第2回〕 類型論
- 〔第3回〕 行為論
- 〔第4回〕 社会システム論
- 〔第5回〕 役割論
- 〔第6回〕 社会的ネットワーク論
- 〔第7回〕 予言の自己成就
- 〔第8回〕 社会的ジレンマ
- 〔第9回〕 逸脱とラベリング

- 〔第10回〕 組織と人間
 〔第11回〕 つきあい方の戦略と秩序形成
 〔第12回〕 試験・講評

◆テキスト

プリントを配布する。

◆参考文献

特に指定しない。

◆成績評価方法

出席および最終日の試験による。

3分野科目／自然科学分野

科目 統計学

2単位

担当 講師 中野 諭

この講義では経済や日常生活における具体的な話題を取り上げながら、それらと関連するデータの読み取り方など統計学の基礎を習得することを目標にしている。

- 〔第1回〕 データの整理
 〔第2回〕 確率
 〔第3回〕 確率変数とその分布
 〔第4回〕 基本的な分布
 〔第5回〕 標本分布（1）
 〔第6回〕 標本分布（2）
 〔第7回〕 母数の推定（1）
 〔第8回〕 母数の推定（2）
 〔第9回〕 仮説検定（1）
 〔第10回〕 仮説検定（2）
 〔第11回〕 線形関係の推定
 〔第12回〕 総括
 〔その他〕 テキスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

- ・森棟公夫『統計学入門 第2版』（新世社、2000年）

◆参考文献

- ・早見均・新保一成『基礎からの統計学』（培風館、2012年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

統計学の初学者を対象とするが、短期間で数多くの内容を取り上げるので、統計学（テキスト科目）レポートの既習者が望ましい。また、講義のなかで実際に練習問題を解く時間を設ける予定なので、ルートが計算できる電卓を用意すること。

◆成績評価方法

基本的には最終回の試験で成績評価を行うが、毎回

講義の際に解く練習問題も加点対象となる。

科目 自然科学特論

2単位

担当 講師 戸金 大

本講義の目的は生物と生物および生物と環境との関係を学ぶことです。ある地域に棲む全ての生物と、それら生物を取り巻く無機的（非生物的）環境のまとまりを示す概念を生態系といいます。生態系の仕組みを理解し、人間と生物の関わりや生態系保全について、受講生の皆さんと本授業を通して考えていきます。

- 〔第1回〕 はじめに-授業の概要
 〔第2回〕 生態系と生物多様性その1
 〔第3回〕 生態系と生物多様性その2
 〔第4回〕 里山の生態系
 〔第5回〕 島嶼の野生生物
 〔第6回〕 人間と生物
 〔第7回〕 生態系破壊と生物多様性の減少
 〔第8回〕 外来生物
 〔第9回〕 生態系の保全（保全生態学とは。野生生物保全の現状）
 〔第10回〕 野生生物保全その1
 〔第11回〕 野生生物保全その2
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

生物や自然環境に興味があり積極的に授業に参加することを望みます。課題の返却にはkcc-Track等を利用し、紙媒体は用いません。

◆成績評価方法

出席点と講義内で実施する課題と最終日の試験によって総合的に評価します。ただし、30%以上欠席した者には単位を付与しません。

外国語科目／英語

科目 英語（リーディング）A

1単位

担当 講師 赤羽俊昭

様々な英文を音読し和訳してもらいます。さらに短い英文を、和訳を見ながら暗唱してもらいます。

- 〔第1回〕 TOEICのReading Sectionに挑戦しましょう。教材は教員がプリントにして当日

配布しますが、辞書を使わなくても済むように注釈を付けておきます。予習は不要です。

また、これとは別に、中学3年生レベルの10語から20語程度の英文10個を表面に、その和訳を裏面に印刷した例文プリントを1枚配布します。次回の授業から和訳を見ながらの暗唱に挑戦してもらうためです。

最終的には4枚配布し、それぞれを2回暗唱してもらう予定です。ただし、同じ日に2回の暗唱はできません。皆さんの進捗状況に合わせて新しい例文プリントを配布します。

- 〔第2回〕 授業開始直後、可能であれば授業開始前から、前回配布した例文プリントの和訳を見ながら、英文の暗唱を一人一人にしています。それが済みましたら、英語のニュース放送に挑戦してもらいます。教材は最近のCNN 10で放送されたニュースを予定しています。まず映像を見て音声を聞きながら、内容を大まかに把握してもらいます。そのあと、放送された英語原稿に注釈をつけたプリントを配布し、受講者の皆さんを指名して、その場で音読と訳読してもらいます。予習は不要です。最後に和訳のプリントを配布します。

なお、例文プリントの暗唱は、授業開始前からプリント教材を扱う直前まで受け付けますが、それ以後は受け付けません。次回以降に挑戦してもらいます。

- 〔第3回〕 プリント暗唱は前回の〔第2回〕と同じ要領で行います。その後、英語のプレゼンテーションの読解に挑戦してもらいます。教材は最近のTEDで取り上げられた話題を取り上げる予定です。授業の進め方は前回と同じです。プリントには注釈をつけておきますので、予習は不要です。最後に和訳のプリントを配布します。
- 〔第4回〕 プリント暗唱の後、CNN10のニュースの音読と訳読に再び挑戦してもらいます。取り上げるのは〔第2回〕とは別のニュースになります。
- 〔第5回〕 プリント暗唱の後、TEDのプレゼンテーションの音読と訳読を行います。取り上げるのは〔第3回〕とは別の内容となります。また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
- 〔第6回〕 プリント暗唱の後、前回配布して担当者を決めておいた英語の新聞の報道記事に挑戦してもらいます。今年のThe Japan Timesの記事に注釈をつけたものを今回と〔第7回〕の2回に分けて読んでいく予定です。
- 〔第7回〕 プリント暗唱の後、前回と同じThe Japan Timesの記事を読んでいます。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。
- 〔第8回〕 プリント暗唱の後、The New York Timesの報道記事に挑戦してもらいます。やり方

は前回までの講読と同じです。今回と〔第9回〕の2回に分けて読んでいく予定です。プリント暗唱の後、前回と同じThe New York Timesの記事を扱います。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。

また、この授業中に、次回および次々回の授業で使用する英文を配布して、段落ごとに音読と和訳の担当者を決めておきます。

- 〔第10回〕 The Economistの記事を2回にかけて扱います。この教材には音声がついていますので、それを聞いてもらってから音読、さらに和訳してもらいます。

- 〔第11回〕 The Economistの続きを読みます。最後に和訳のプリントを配布します。授業時間内に音読と和訳をやってもらうことができなかった受講生には、授業終了時に和訳をレポートという形で提出してもらいます。次回授業時に添削して返却します。

- 〔第12回〕 筆記による総括を行います。その後は、出題した問題の解説と、採点のポイントについてお話しします。

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆成績評価方法

暗唱プリントの進捗状況（40点満点）、授業時の英文の読解力（10点満点）と最終日の試験結果（50点満点）に基づいて決定します。

暗唱プリントの配点が大きいので、気をつけてください。

科目 英語（リーディング）B

1単位

担当 法学部教授 小屋逸樹

世界のビジネス界で最先端を走る多国籍企業を取り上げ、その起業の精神、ビジネス発展の経緯、国際社会における影響力などを見て行きます。授業では、毎回異なる企業を題材に、創業者の理念、沿革、今後の展望などを紹介する本文と、本文内容に関する練習問題、及び語彙力をアップするコラム等に取り組みます。

〔第1回〕 イン트로ダクション Sony

〔第2回〕 Gucci

〔第3回〕 Wal-Mart

〔第4回〕 IKEA

〔第5回〕 The Body Shop

〔第6回〕 Google

〔第7回〕 Amazon

〔第8回〕 Wipro

〔第9回〕 Starbucks

〔第10回〕 Lenovo

〔第11回〕 Apple

〔第12回〕 総括・試験

◆ テキスト

- ・ Andrew E. Bennett / Shoji Shimabayashi / Sean A. White 『Bottom Line Business Stories』(成美堂、2012年) ISBN-978-4-7919-5083-6

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

英語をビジネス世界に関連づけて学ぶ授業です。現存する世界の有力な企業を見て行きますので、実業界にも関心がある方の受講を望みます。

◆ 成績評価方法

平常点と試験結果に基づいて評価します。

科目 英語 (リーディング) C

1 単位

担当 経済学部教授 ノッター・デビッド

In this class we will focus on 'extensive reading'. Students will be asked to keep a reading log, and to read each day for at least 30 minutes. Students will be allowed to choose their own reading material (provided of course that it is in English, and also that it is suitably academic in nature), and students may stop reading a given book and choose a new one any time they like. During class students will be asked to give short presentations on some of the new vocabulary words they have come across while reading. Students will also discuss the content of the books they are reading in small groups. In addition, most classes will begin with a short vocabulary quiz.

Session 1: Introduction to the course

Session 2: Vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 3: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 4: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 5: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 6: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 7: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 8: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 9: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 10: vocabulary quiz, vocabulary

presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 11: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

Session 12: vocabulary quiz, vocabulary presentations, group work, in-class reading (if time permits)

◆ テキスト

This class will not require a textbook. Students will be asked to find their own books for extensive reading in the library.

◆ 成績評価方法

Evaluation will be based on attendance and participation, presentations, short vocabulary quizzes, and the reading log.

科目 英語 (リーディング) D

1 単位

担当 講師 藤田真理子

英語のリーディングを通して英語力を養成する講座です。本講座ではテキストの内容理解にとどまらず、学習した表現を使って英文を産出することを目指します。授業前の予習はしっかり行ってください。テキストの全てのタスクに自分なりの答えを書いてから、授業に出ることを期待します。授業形態のほとんどはペアワークです。授業には英和辞書を必ず持参してください。各ユニットを学習した後、英文内容を要約したり、扱われたテーマについて自分の意見を発表できることが目標です。

授業の流れ (一つのユニット) テキストの音読→表現のチャンク (かたまり) を探す→内容理解チェック (True or false, Q&A) →単語学習 (定義、派生語) →要約→自分の意見を発表

〔第1回〕 オリエンテーション Unit 1 10 Steps to Be a Good Husband

〔第2回〕 Unit 4 New Trend in Boy-Girl Housing

〔第3回〕 確認テスト (Unit 1 & 4) Unit 5 Laugh Your Stress Away

〔第4回〕 Unit 6 The Olympics Now and Then

〔第5回〕 確認テスト (Unit 5 & 6) Unit 7 Writing Diaries on the Web

〔第6回〕 Unit 8 Uluru, Not Ayers Rock

〔第7回〕 確認テスト (Unit 7 & 8) Unit 9 More People Enjoying a Solo Life

〔第8回〕 Unit 10 Who Would the Taxis Stop for?

〔第9回〕 確認テスト (Unit 9 & 10) Unit 11 Be a Responsible Pet Owner

〔第10回〕 Unit 12 The Super-detective Is Blind

〔第11回〕 Unit 13 Pros and Cons of Surrogate Births

〔第12回〕 確認テスト (Unit 11 & 12& 13) Unit 15 A Struggle for Citizenship

◆ テキスト

- ・ 静哲人 『Reading in Action 学習者参加の英語

リーディング』（金星堂、2009年）

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

授業では積極的に英語を音読したり、英語で自分の意見を発表することを期待します。ペアワークが多いので、お互いから学ぼうとする態度が前提条件。なおペアは毎時間変えます。

◆ 成績評価方法

授業への参加度と貢献度50%と確認テスト（2回分のユニット）5回50%。

科目 英語（リーディング）E

1単位

担当 文学部准教授 徳永聡子

人類の営みの礎となる「ことば」は、しばしば歴史に大きな影響を与えてきました。この授業では、英語による歴史的なスピーチを取り上げ、ことばの豊かさや重層性を味わい、歴史や文学について一緒に考えたいと思います。毎回本文を精読していきますが、演説を聞いたり、音読なども行います。また、受講者によるミニプレゼン（各スピーチの歴史的背景について）の時間も考えています。演説によっては読み解くのがむずかしい箇所もありますが、適宜担当者が読解に必要な文法や構文の解説を行います。

- 〔第1回〕 イントロダクション（Franklin D. Roosevelt, 'From Freedoms'）
- 〔第2回〕 Lady Astor, 'Women in Politics'
- 〔第3回〕 King Edward VIII, 'Crown or Love'
- 〔第4回〕 Bertrand Russell, 'Peace Appeal'
- 〔第5回〕 Edwin O. Reischauer, 'The English Language and Japan's Role in the World'
- 〔第6回〕 Queen Elizabeth II, 'Banquet Speech at the Imperial Palace'
- 〔第7回〕 Abraham Lincoln, 'The Gettysburg Address'
- 〔第8回〕 John F. Kennedy, 'Inaugural Address'（1）
- 〔第9回〕 John F. Kennedy, 'Inaugural Address'（2）
- 〔第10回〕 William Faulkner's Nobel Prize Acceptance Speech
- 〔第11回〕 From the Plays of Shakespeare
- 〔第12回〕 試験および総括

◆ テキスト

・荒井良雄編、尾崎寛注訳『英語名演説集』（英光社、2010年）

◆ 参考文献

授業内で適宜指示します。

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

基本的な文法事項の既習が前提となります。また、毎回の予習は必須です。

◆ 成績評価方法

出席および平常点（60%）、期末試験（40%）の総合評価とします。

科目 英語（リーディング）F

1単位

担当 講師 有賀明子

英文ニュースの記事を読み、時事英語表現と読解のスキルを習得する。発音を確認後、単語（語義、慣用語の把握）、文法（構文の正しい理解）、文章の構成（論理、さらには内容に対する自分の考え）すべてに注意を払いながら本文を読む。毎授業時に小テストを実施し、既習部分の理解度を測る。

- 〔第1回〕 イントロダクション、〈政治〉新潟県知事選 与党（自民）支持候補勝利
- 〔第2回〕 〈経済・ビジネス〉日欧、経済連携協定に調印 規模は世界GDPの3割に
- 〔第3回〕 〈外交・国際会議〉トランプ米大統領の強硬発言でG7の結束にひび 米国との対立（深刻化）
- 〔第4回〕 〈軍事〉中国との緊張の中、米国太平洋軍の呼称変更
- 〔第5回〕 〈文化・社会〉サウジアラビア、ようやく女性の運転解禁
- 〔第6回〕 〈犯罪・事件〉「#もうたくさんだ」銃暴力に抗議し、全米で高校生が授業ボイコット
- 〔第7回〕 〈裁判・法令〉組織犯罪・贈収賄に司法取引 日本で導入
- 〔第8回〕 〈地球環境〉WHO発表の新データ：大気汚染が最もひどい都市と最も少ない都市はどこか
- 〔第9回〕 〈人口問題〉出産後も仕事を続ける日本女性の数は過去最多に
- 〔第10回〕 〈テクノロジー〉トヨタ、ウーバー関連の死亡事故を受け自動運転車試験を一時中止
- 〔第11回〕 〈スポーツ〉終了直前ベルギーの反撃許し 3-2で日本W杯から敗退
- 〔第12回〕 総括

◆ テキスト

・堀江洋文ほか編著『時事英語の総合演習—2019年度版—』（朝日出版社、2019年）ISBN978-4-255-15642-2

◆ 成績評価方法

授業への出席と貢献度（30%）、試験（70%）によって評価する。

科目 英語（ライティング）1

1単位

担当 講師 津田敦子

センテンスレベルでのライティングからパラグラフ、エッセイの書き方を学びます。センテンスライティングの段階では、主に文法や語彙に注目し、正確な英文の書き方を練習します。その後、複数の文から成り立つパラグラフの構成や論理的展開を理解し、最終的にエッセイへの応用ができるように講義や演習を組み立てていきます。自分の伝えたいことを正しく、効果的に英文で表現する能力を養うことがこの授業の目的です。

- 〔第1回〕 Introduction
- Diagnostic test
- 〔第2回〕 Sentence Writing
- Sentence Structure (1)
- Paraphrasing
- 〔第3回〕 Sentence Writing
- Sentence Structure (2)
- Summarizing
- 〔第4回〕 Sentence Writing
- Vocabulary and Word Choice
- Dictionaries
- 〔第5回〕 Paragraph Writing
- Organization
- Types
- Unity
- Coherence
- 〔第6回〕 Paragraph Writing
- Topic Selection (Brainstorming)
- Main Idea
- Supporting Details and evidence
- Punctuations
- 〔第7回〕 Paragraph Writing
- Proofreading
- Revising
- 〔第8回〕 Essay Writing
- Types
- Process
- 〔第9回〕 Essay Writing
- Introduction
- Conclusion
- 〔第10回〕 Essay Writing
- Body Paragraphs
- 〔第11回〕 Essay Writing
- Peer feedback
- Consultations
- 〔第12回〕 Final Review and Essay Submission
- ◆テキスト
プリントを適宜配布する。
- ◆受講上の要望または受講上の前提条件
1) 初回の授業で簡単なレベルチェックを行い、その結果によって授業の内容に多少の変更が生じるかもしれません。
2) 課題はタイプして印刷したものを提出していただくので、事前にPCの準備やその使い方を確認しておいてください。
3) 授業中少人数のグループで答え合わせや意見交換を行ったり、お互いのライティングについてコメントするなどのアクティビティーが予定されていますので、クラスメイトと楽しみながら積極的に授業に参加していただきたいと思います。
- ◆成績評価方法
出席 20%
授業参加度 20%
課題 30%
Final Essay 30%

科目 英語（ライティング）2

1単位

担当 医学部准教授 小町谷尚子

英作文は、自分の言いたいことを英語で書き表す勉強です。英作文を上達させるには、英語特有の“発想法”を学ぶ必要があります。自然な英文を作るために、文の組み立ての法則（文法）の理解は欠かせませんが、単語の使い分けや構文の区別を勉強することから脱しましょう。“あるがままに英文の意味を理解”して練習を積み重ね、質の良い英文や英語らしい表現を自分のものにしていきましょう。

毎回、テキストのユニットを二つ程度進みます。平易な例文を活用できるように学習していきましょう。

- 〔第1回〕 動詞を理解する
〔第2回〕 目的語と補語を理解する
〔第3回〕 疑問文と否定文を理解する
〔第4回〕 現在形・現在進行形と過去形を理解する
〔第5回〕 完了形と未来形を理解する
〔第6回〕 助動詞と名詞の使い方を理解する
〔第7回〕 言葉を修飾する方法を理解する：形容詞（句）と副詞（句）
〔第8回〕 動名詞と不定詞を理解する
〔第9回〕 前置詞を理解する
〔第10回〕 比較、態、接続表現を理解する
〔第11回〕 関係詞、話法、仮定法を理解する
〔第12回〕 総括

◆テキスト

・本多吉彦、土屋武久『College Grammar Pathfinder 基本文法から始める大学英語』（金星堂、2012年）ISBN-978-4-7647-3933-8

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

このコースは、英語で作文という単語の置き換えに終始してしまう人や英語的な発想で作文したいと思っている人を対象とします。発想力と表現力を高めることがねらいです。毎回Quick Review of Grammar Points（各回2つ分）に目を通して授業に臨んでください。辞書は必携です。自ら辞書を引いて、英文を書くことで、英作文の力が身に付きます。

◆成績評価方法

成績は出席と学習姿勢（30%）、最終試験（70%）の総合評価とします。

科目 英語（ライティング）3

1単位

担当 文学部助教 加藤有佳織

明快な英語で分かりやすい文章を書く力を充実させることを目的とします。実際に書く作業では、英文法や英語表現の知識だけではなく、インプットした情報を理解・整理し、それについて英語で考える作業も必要とされます。このプロセスを実践的に学ぶため、各回、世界の社会や文化について論じた300-500語の文章を題材にします。最初にディクテーションや空欄補充問題を行ないながら、内容とともに英文の構造や構成について理解を深めます。次に100語ほどの英語要約を作り、パラフレーズする力や語彙を身に着けます。そして、150-250語の意見文を書きながら、パラグラ

フ・ライティングの基本を学びます。初回時は予習は不要です。各回要約文は授業内で完成させます。意見文は次回に提出します。

- 〔第1回〕 イントロダクション；課題1
- 〔第2回〕 課題2；課題1意見文提出
- 〔第3回〕 課題3；課題2意見文提出
- 〔第4回〕 課題4；課題3意見文提出
- 〔第5回〕 課題5；課題4意見文提出
- 〔第6回〕 課題6；課題5意見文提出
- 〔第7回〕 課題7；課題6意見文提出
- 〔第8回〕 課題8；課題7意見文提出
- 〔第9回〕 課題9；課題8意見文提出
- 〔第10回〕 課題10；課題9意見文提出
- 〔第11回〕 課題11；課題10意見文提出
- 〔第12回〕 まとめ；課題11意見文提出；試験

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

英和辞書・和英辞書をお持ちください。

◆成績評価方法

ディクテーション・空欄補充（10%）・要約（30%）・意見文（30%）・最終日試験（30%）による総合評価とします。

科目 英語（ライティング）4

1単位

担当 講師 藤井 誠

本授業では、中学高校で学習してきた英語の基礎を復習し、みなさんが日常生活で用いるような基本的な英語表現に重点をおき、英語によるコミュニケーションの向上を目指します。同時に、英語のパラグラフの構造についても学習します。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 英文ライティングの基本
- 〔第3回〕 主題文について
- 〔第4回〕 ボディについて
- 〔第5回〕 支持文について
- 〔第6回〕 結論文について
- 〔第7回〕 下書きと修正
- 〔第8回〕 文のつながり
- 〔第9回〕 ブレインストーミング
- 〔第10回〕 首尾一貫性
- 〔第11回〕 パラグラフのタイプについて
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・鈴木卓『Useful Hints and Examples on Basic English Writing』松柏社、2011年、ISBN 978-4-88198-648-6
- ・静哲人『Writing Facilitator. (Revised edition)』松柏社、2019年、ISBN 978-4-88198-751-3

◆受講上の要望または受講上の前提条件

毎回必ず英和辞典・和英辞典を持参すること。

◆成績評価法

出席（10%） 授業参加（ライティング20%）
課題（10%） 試験（60%）

科目 英語（ライティング）5

1単位

担当 講師 由井 ロバート

英語で理論的な文を書き、自分の主張や説明などを読んだ人に伝えることを目的としています。授業では各自英文を作成し、作文の構成法に従って説得力のある明確な文を書くことを目指します。明確さや理論性を重視する英文においてはスキルやルールも重要です。文を書く事が得意ではない人も。他の受講生を気にせずに丁寧に自分のペースで文を書いてもらいます。書く力を身につけるには実際に多くの文を書く事が一番良い方法で、多く書く事により作文力が上がります。出された課題に対し下書きをし、それを講師が添削し仕上げます。良い文を書くのが目的ですので、多く書く事により書く力が養われます。随時新し課題が出されますが、この授業では課題を多くこなす事が目的ではなく、書いた内容を重視しますので、一つ一つの課題に対し丁寧に取り組んで欲しいと思います。授業の内容はクラスの人数、進み具合により内容が前後する場合もあります。（課題は10ありますが、全ての課題を早く終わらせた人達には新たな課題が用意されています。）書くのは全て手書きです。

- 〔第1回〕 自己紹介：英文で自己紹介の文を書いてもらいます。
- 〔第2回〕 語彙チェック：英文を書くのにはある程度の語彙が必要になります。この回では辞書を使わずに行う語彙チェック課題が出されます。
- 〔第3回〕 人物描写：英語で人物の特徴、外見などを説明します。
- 〔第4回〕 風景描写：景色などを英語でいかに正確に表現できるかに挑戦してもらいます。
- 〔第5回〕 道案内：道順を説明するのは何語でも難しいとされています。この回では英語で道順の説明を書いてもらいます。
- 〔第6回〕 昔話を書く：すでにある昔話を英語で書きます。どの話を選ぶかは各自自由です。
- 〔第7回〕 詩を書く：英語で詩を書きます。（この課題は後になる場合もあります。）
- 〔第8回〕 説明文：英語で何かの説明文を書いてもらいます。各自得意なものの説明を選んでもらいます。
- 〔第9回〕 古事成語：由来と使い方を英文で書いてもらいます。
- 〔第10回〕 比較・対比：英語で何かの比較ないし対比をしてもらいます。
- 〔第11回〕 最終課題：最終課題は長文になります。長さは授業で発表をします。下書きをし、添削をした後に清書します。
- 〔第12回〕 最終課題提出：添削をしたものの清書をし、最終日に提出になります。全員同じ用紙にて提出になります。

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

辞書（電子辞書、スマホ、全て可）を必ず持参してください。

授業でノートパソコンなどを使つての検索は可ですが、書き物は全て手書きが決まりです。その他の必要な事柄については初回の授業出説明をします。

◆ 成績評価方法

この授業の性質上、毎回出席をし、課題を一つ一つ終わらせていきます。最初に述べたように、課題を幾つ終わらすかは重視しません。内容と表現力を重視して評価します。全ての課題が終わってなくても問題ありません。ただし、最終課題は全員提出になります。最終課題は評価の3割、授業での課題は5割、出席が2割となります。ただし、正当な理由（病気、出張、冠婚葬祭など）がなく欠席を3回以上した場合は自動的に『不可』になりますので注意してください。

科目 英語（ライティング） 6

1 単位

担当 講師 多々良直弘

本授業では日英語対照研究や認知言語学において指摘されている日本語と英語の言語的特徴の違いや文化的違いを比較することを通じて、英語らしい表現方法を考察していきます。

- 〔第1回〕 日本語と英語の言語的特徴について 1
- 〔第2回〕 日本語と英語の言語的特徴について 2
- 〔第3回〕 日本語と英語の好まれる言い回し 1
- 〔第4回〕 日本語と英語の好まれる言い回し 2
- 〔第5回〕 日本語と英語の談話構造 1
- 〔第6回〕 日本語と英語の談話構造 2
- 〔第7回〕 英語の多義語の分析 1
- 〔第8回〕 英語の多義語の分析 2
- 〔第9回〕 選択制限とコロケーション 1
- 〔第10回〕 選択制限とコロケーション 2
- 〔第11回〕 英語らしさとは何か
- 〔第12回〕 総括

◆ テキスト

プリントを適宜配布する。

◆ 学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

授業には指定された箇所を予習した上で出席をして

ください。演習の時間を多く設けるので、積極的な参加が求められます。

◆ 成績評価方法

最終日の試験と出席状況、授業貢献度による。

科目 英語（ライティング） 7

1 単位

担当 講師 藤井 誠

本授業では、英語の基本となる5文型をしっかりと理解し、英語の表現としてより自然な英文を書けるようになるための学習を行います。同時に、英語作文の基本となるパラグラフに関する基本的な事項についても学習します。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 英語の基本5文型について
- 〔第3回〕 センテンスをつくる
- 〔第4回〕 主語の選択
- 〔第5回〕 基本時制
- 〔第6回〕 仮定法について
- 〔第7回〕 群動詞について
- 〔第8回〕 パラグラフについて
- 〔第9回〕 主題文について
- 〔第10回〕 統一性について
- 〔第11回〕 パラグラフのタイプについて
- 〔第12回〕 試験・総括

◆ テキスト

- ・小中秀彦『Basic College Writing with 5 Sentence Patterns』センゲージラーニング、2008年、ISBN 978-4-86312-055-6
- ・Mark D. Stafford『Writing Together from Sentence to Paragraph』金星堂、2014年、ISBN 978-4-7647-3977-2

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

毎回必ず英和辞典・和英辞典を持参すること。

◆ 成績評価法

出席（10%） 授業参加（ライティング20%）
課題（10%） 試験（60%）

外国語科目／ドイツ語

科目 ドイツ語（初級前期） I—A

1 単位

担当 講師 田中 横

初級前期は、ABC、発音の仕方から始めて、ドイツ語文法の基本ルールを学習し、ドイツ語を読み、書き、聞き、話すことのしっかりとした基礎をつくる。教科書の約半分、zu不定句のところまで学習する。

- 〔第1回〕 アルファベート、第1課：発音
- 〔第2回〕 第2課：動詞の現在人称変化
- 〔第3回〕 第3課：冠詞と名詞（単数）
- 〔第4回〕 第4課：冠詞類
- 〔第5回〕 第5課：前置詞
- 〔第6回〕 第6課：名詞の複数形
- 〔第7回〕 第7課：動詞の人称変化（特殊）、命令形

- 〔第8回〕 第8課（1）：話法の助動詞
- 〔第9回〕 第8課（2）：未来形
- 〔第10回〕 第9課：定形後置
- 〔第11回〕 第10課：zu不定句
- 〔第12回〕 まとめと試験

◆ テキスト

- ・大谷弘道・井戸田総一郎・岩下真好・大畑純一・識名章喜編『新編初歩ドイツ語』（慶應義塾大学出版会、1995年）

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

この段階は、今後のドイツ語のあらゆる学習の基礎となるものなので、きちんと身につけてほしい。

◆ 成績評価方法

スクーリング最終日の試験によって評価する。

科目 ドイツ語（初級前期）Ⅰ—B 1単位**担当** 経済学部教授 七字眞明

ドイツ語（初級前期）Ⅰ—Aと同じ。

科目 ドイツ語（初級後期）Ⅱ—A 1単位**担当** 講師 津崎正行

初級後期は、初級前期に引き続いてドイツ語の文法の基礎を学ぶ。教科書の後半、形容詞以後を学習する。

- 〔第1回〕 初級前期の総ざらい
 〔第2回〕 第11課：形容詞の変化
 〔第3回〕 第12課：分離動詞
 〔第4回〕 第13課：再帰動詞
 〔第5回〕 第14課：動詞の3要形と過去
 〔第6回〕 第15課：現在完了
 〔第7回〕 第16課：受動形
 〔第8回〕 第17課：関係代名詞
 〔第9回〕 第18課：接続法の形態
 〔第10回〕 第19課：接続法の用法（1）—間接話法
 〔第11回〕 第20課：接続法の用法（2）—非現実話法
 〔第12回〕 まとめと試験

テキスト、注意事項等は、ドイツ語（初級前期）Ⅰ—A、Bと同じ。

科目 ドイツ語（中級）Ⅲ—A 1単位**担当** 講師 吉田 真

このクラスでは、最新のドイツ事情について書かれたテキストを読み、ドイツ語の読解力を身につける練習に取り組みます。あわせてドイツ語の基本的な文法事項の復習も行ないます。

なお、各回の授業で扱う予定範囲は、履修者のドイツ語文法の理解度に応じ、多少変わる可能性があります。また、適宜、文法事項の復習と補足をします。

- 〔第1回〕 イントロダクション 狼の復活
 〔第2回〕 ドイツで昆虫が激減
 〔第3回〕 30年戦争—ドイツ人のトラウマ
 〔第4回〕 カール・マルクス生誕200年
 〔第5回〕 レクラム文庫誕生から150年
 〔第6回〕 中世への憧れ
 〔第7回〕 ドイツ介護の現状
 〔第8回〕 サッカー W杯ロシア大会 前回優勝国の惨敗
 〔第9回〕 日本・EU経済連携協定締結
 〔第10回〕 新政府に早くも亀裂
 〔第11回〕 森林浴
 〔第12回〕 ドイツと日本のロマンチック街道
 試験および総括

◆ テキスト

- ・Andrea Raab・石井寿子『時事ドイツ語 2019年度版』（朝日出版社、2019年）ISBN-978-4-255-25424-1

◆ 参考文献

- ・中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携ドイツ文法総ま

とめ』（白水社、1985年）

- ・中島悠爾・平尾浩三・朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ〔改訂版〕』（白水社、2003年）

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

授業では、皆さんにテキストの和訳を担当していただきます。毎時間必ず予習（独和辞典を用いてひととおりテキストの日本語訳を準備する）をして授業に臨んでください。また、独和辞典と以前使用した初級文法の教科書も持参してください。

◆ 成績評価方法

原則として最終回に実施する試験の結果と平常点で総合的に評価しますが、参加人数によっては平常点のみで評価する場合もあります。

科目 ドイツ語（上級）Ⅳ—A 1単位**担当** 講師 矢田部清美

〔授業の題目〕

Die deutsche Kultur und Geschichte ドイツ語圏の文化と歴史

〔授業の概要〕

本クラスでは、受講者のみなさんが卒業論文に向けドイツ語で書かれた文献の収集・読解・まとめができるようになること、さらには（可能な限り）文献内容について問いを立て考察を行えるようになることを目標にしています。そのため、ゼミナール形式による授業進行、すなわち、自らの発表や討論により受講者のみなさんが主体的に学習を進めることを予定しています。

指定テキストは文学作品や論文読解への導入としてドイツのことば・文化・歴史・社会を概観する目的で書かれています。既習文法・慣用表現の定着を図りつつドイツ語圏の文化背景を学び直してみましょう。

〔第1回〕 導入・（受講者の）自己紹介

〔第2回〕 テキスト第一章（Kapitel 1 Die deutsche Sprache）言語について

〔第3回〕 テキスト第二章（Kapitel 2 Germanen und Deutsche）民族について（1）～7頁14行目

〔第4回〕 テキスト第二章（Kapitel 2 Germanen und Deutsche）民族について（2）～12頁19行目

〔第5回〕 テキスト第三章（Kapitel 3 Das Reich und der Nationalismus）帝国と国家主義について

〔第6回〕 テキスト第四章（Kapitel 4 Die Kultur und die Politik）文化について（1）～26頁22行目

〔第7回〕 テキスト第四章（Kapitel 4 Die Kultur und die Politik）政治について（1）～31頁25行目

〔第8回〕 テキスト第四章（Kapitel 4 Die Kultur und die Politik）文化について（2）～35頁12行目

〔第9回〕 テキスト第四章（Kapitel 4 Die Kultur und die Politik）政治について（2）～39頁6行目

- 〔第10回〕 関連文献（1）（授業内で内容を決定し配布します）
 〔第11回〕 関連文献（2）（授業内で内容を決定し配布します）
 〔第12回〕 試験および総括
 〔その他〕 課題が課されることがあります。

◆テキスト

- ・Harold von Hofe著『ドイツ・ことばと文化〔第二版〕』（朝日出版社、1997年）ISBN 4-255-25048-9

◆参考文献

必要に応じ、授業内で紹介いたします。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

- ・第3回以降の授業において、ゼミナール形式にて受講者に教科書や事前配布された関連文献の指定され

た範囲について担当し内容を紹介してもらうことを考えています。紹介方法は口頭、紙によるレジュメやスライドを用いたものなど担当者の希望によります。その回の担当以外の受講者も指定された範囲の予習が十分なされていることを前提に質疑応答に加わって頂きます。第1回の授業で希望により担当する範囲を決めたいと思いますので、なるべく欠席のないようにして下さい。

- ・受講者の人数や理解度・希望により授業予定の順序や進度の変更がありえます。
- ・辞書と以前使用した文法の教科書をご持参ください。

◆成績評価方法

平常点（60%）と最終回に実施する試験の結果（40%）で総合的に評価いたします。

外国語科目／フランス語

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—A 1単位

担当 講師 アブリアル、ジャン・ピエール

フランス語の初級文法の授業です。「綴りと発音」から始めて「目的語人称代名詞の位置」までを学習します。教科書は0課から10課までを学習します。毎回教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で授業を進めていきます。

- 〔第1回〕 Leçon 0 綴りと発音
 〔第2回〕 Leçon 1 「名詞の性と数」・「冠詞」・「提示表現」
 〔第3回〕 Leçon 2 「主語人称代名詞」・「動詞êtreとavoirの直接法現在形」・「疑問文に対する答え方」
 〔第4回〕 Leçon 3 「-er型規則動詞と-ir型規則動詞の直説法現在形」・「形容詞」
 〔第5回〕 Leçon 4 「指示形容詞」・「所有形容詞」・「強勢人称代名詞」
 〔第6回〕 Leçon 5 「否定文・否定のde」・「疑問文」・「否定疑問文に対する答え方」
 〔第7回〕 Leçon 6 「不規則動詞allerとvenirの直接法現在形」・「近接未来と近接過去」・「前置詞aとdeと定冠詞の縮約」・「強調構文」
 〔第8回〕 Leçon 7 「疑問形容詞」・「疑問副詞」・「疑問代名詞（1）一性・数変化しないもの」
 〔第9回〕 Leçon 8 「命令法」・「非人称構文」・「疑問代名詞（2）一性・数変化するもの」
 〔第10回〕 Leçon 9 「比較級」・「最上級」・「特殊な優等比較級・優等最上級」
 〔第11回〕 Leçon 10 「人称代名詞」・「目的語人称代名詞の位置」
 〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

- ・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法（CD付）』（朝日出版社、2007年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語を初めて学ぶ学生を対象とします。1回の授業で教科書の1課を学習するという比較的速いペースで進みますので、授業前の予習と授業後の復習は不可欠です。予習に関しては、授業前に授業で学ぶ課の文法説明を一読して理解するよう努めるようにしてください。復習に関しては、教科書の練習問題はもちろん、付録の文法問題も必ず解き、授業で学習した課の内容を確実にマスターするよう心がけてください。なお、教科書にはCDも付いていますので、フランス語の発音の学習に大いに役立ててください。

一般に、語学の学習にとって反復練習は欠かせません。動詞の活用を含めた文法事項は、何度も音読して暗記し、また忘れたら覚え直すという作業を繰り返す、できるだけ多くの文法練習の問題を解くようにしてください。この作業を繰り返すうちに確実にフランス語の実力がつくようになるでしょう。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目 フランス語（初級前期）Ⅰ—B 1単位

担当 講師 小嶋竜寿

フランス語（初級前期）Ⅰ—Aと同じ。

科目 フランス語（初級後期）Ⅱ—A 1単位

担当 講師 森 千夏

フランス語初級前期にひきつづき、「過去分詞」から「接続法」までを学習します。教科書は11課から20課までを学習します。1回の授業で教科書の1課を学習するというペースで、まず教師が文法解説をし、そのあと練習問題を解くという形で進めていきます。なお初回の授業は前期に学習した文法の復習に充てます。

〔第1回〕 Leçon 6からLeçon 10までの文法事項

- の復習
- 〔第2回〕 Leçon 11 「過去分詞」・「直説法複合過去」
- 〔第3回〕 Leçon 12 「代名動詞」
- 〔第4回〕 Leçon 13 「中性代名詞 en, y, le」
- 〔第5回〕 Leçon 14 「関係代名詞」
- 〔第6回〕 Leçon 15 「受動態」・「指示代名詞」・「所有代名詞」
- 〔第7回〕 Leçon 16 「直説法半過去形」・「直説法大過去形」
- 〔第8回〕 Leçon 17 「直説法単純未来形」・「直説法前未来形」
- 〔第9回〕 Leçon 18 「現在分詞」・「ジェロンディフ」
- 〔第10回〕 Leçon 19 「条件法現在形・過去形」
- 〔第11回〕 Leçon 20 「接続法現在形・過去形」
- 〔第12回〕 総括・最終試験

◆テキスト

・石上亜紀子他『アトリエ・フランセー見開きフランス語文法 (CD付)』(朝日出版社、2007年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

フランス語初級前期を終えた学生、またはそれと同程度の知識を持つ学生を対象とします。この科目の受講希望者は、第1回目の授業の前までに『アトリエ・フランセ』の特に6課から10課までを自主学習しておいてください。第1回目の授業ではこれらの課の簡単な復習をします。

テキスト、注意事項などはフランス語 (初級前期) I—A、Bと同じです。

◆成績評価方法

平常点および最終試験による。

科目	フランス語 (中級) III—A	1単位
----	------------------	-----

担当	文学部教授 宮林 寛
----	------------

フランス語初級文法を終えた学習者を対象に、文法事項の復習も兼ねて、長文読解の練習をします。教材は社会問題や歴史、文化に触れながら、フランスという国の今を学ぶアンソロジーです。

- 〔第1回〕 購読 : 「モナ・リザ」盗難事件
- 〔第2回〕 購読 : パリで暮らす日本女性
- 〔第3回〕 購読 1 : ストとデモはフランスの代名詞
購読 2 : サン・ティアゴ・デ・コンポステーラへの巡礼
- 〔第4回〕 購読 1 : ミネラル・ウォーター vs 水道水
購読 2 : シャネル
- 〔第5回〕 購読 1 : クール・ジャパン
購読 2 : 南仏生まれのペタンク
- 〔第6回〕 購読 1 : 国歌「ラ・マルセイエーズ」にブーイング
購読 2 : エッフェル塔120年
- 〔第7回〕 購読 1 : ユーロディズニー20周年
購読 2 : ヨーロッパのイスラム教
- 〔第8回〕 購読 1 : 原発政策の行方
購読 2 : 女性の社会進出
- 〔第9回〕 購読 1 : 化粧品のパイオニア
購読 2 : 第3の選択肢、ボックス

- 〔第10回〕 購読 1 : フランス式エリート養成機関
購読 2 : ジャンヌ・ダルク
- 〔第11回〕 購読 1 : フランス語圏ケベックの歴史
購読 2 : バラ色の街、トゥールーズ
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

・加藤晴久、ミシェル・サガス他『A la page 精選集 2010-2012』(朝日出版社、2015年)

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

フランス語初級を終えていること。

◆成績評価方法

平常点と最終試験による総合評価

科目	フランス語 (上級) IV—A	1単位
----	-----------------	-----

担当	経済学部専任講師 山本武男
----	---------------

- 〔第1回〕 『ロダンの言葉』序、第一章「芸術に於ける写実主義」I (p.i-2)
- 〔第2回〕 『ロダンの言葉』第一章II 第二章「芸術家にとって自然はすべて美しい」I (p.26)
- 〔第3回〕 『ロダンの言葉』第二章「芸術家にとって自然はすべて美しい」II (p.6-12)
- 〔第4回〕 『ロダンの言葉』第二章III 第三章「芸術に於ける動き」I (p.12-17)
- 〔第5回〕 『ロダンの言葉』第三章「芸術に於ける動き」II (p.17-21)
- 〔第6回〕 『ロダンの言葉』第三章III 第四章「芸術に於ける神秘の領域」I (p.21-25)
- 〔第7回〕 『ロダンの言葉』第四章II 第五章「フェイディアスとミケランジェロ」I (p.25-31)
- 〔第8回〕 『ロダンの言葉』第五章「フェイディアスとミケランジェロ」II (p.31-35)
- 〔第9回〕 『ロダンの言葉』第五章III 第六章「ルーヴルにて」I (p.35-40)
- 〔第10回〕 『ロダンの言葉』第六章「ルーヴルにて」II (p.40-45)
- 〔第11回〕 『ロダンの言葉』第六章「ルーヴルにて」II (p.45-50)
- 〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

・オーギュスト・ロダン『芸術について』(駿河台出版社、1965年)

◆参考文献

・朝倉季雄著、木下光一校閲『新フランス文法事典』(白水社、2002年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

一通り初級文法をマスターし、中・上級レベルの読み物を読んでみたいという意欲のある方向けの講座です。毎時間、予習が必要です。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

2 文学部専門教育科目

第1類に属する科目

科目	哲学（専門）	2単位
担当	講師 岡嶋隆佑／講師 戸澤幸作	

この講義では、前後半に分かれて異なる二つの哲学的な問題を紹介し検討します。

前半の岡嶋パートでは、時間の問題を扱います。まず、時間一般（時間の形而上学）について、過去や未来は実在するか、時間にとって本質的なのは順序か時制かなど、主張な問題を検討します。その上で、意識される時間（時間経験の哲学）について、近年の認知科学の成果を踏まえつつ、時間の流れはどのように経験されるか、などの諸問題に取り組みます。

講義後半の戸澤のパートでは、20世紀フランスの哲学者ジル・ドゥルーズを手引きとして、哲学における開始について考えます。哲学とは何かという基礎的な問いがあります。しかし、「とは何か」という問いの手前に、より切実な哲学は「いつ」「どこで」「どんなふうに」始まるのかという問いを立てることが出来ます。このパートでは過去の哲学者たちに関するドゥルーズのいくつかの議論を参照しつつ、こうした問いに向き合い、それを通じて、私たちの生の根底に見出される可能的実践としての哲学という営みについて考えます。

- 〔第1回〕 イントロダクション（岡嶋・戸澤）
- 〔第2回〕 時間哲学の歴史（岡嶋）
- 〔第3回〕 時間の形而上学1（岡嶋）
- 〔第4回〕 時間の形而上学2（岡嶋）
- 〔第5回〕 時間経験の諸問題1（岡嶋）
- 〔第6回〕 時間経験の諸問題2（岡嶋）
- 〔第7回〕 哲学すること、思考すること：デカルト、カントに向き合って（戸澤）
- 〔第8回〕 能動的に何かを選び取ること：プラトン、サルトルと共に（戸澤）
- 〔第9回〕 思考することの「いつ」「どこで」：シャルル・ペギーの場合（戸澤）
- 〔第10回〕 何でも肯定すること：パスカルの賭けとニーチェの永遠回帰（戸澤）
- 〔第11回〕 「誰が」哲学するのか：純粋な思考の力としての「信じる」こと（戸澤）
- 〔第12回〕 総括（岡嶋・戸澤）

◆テキスト

指定しない。

◆参考文献

- ・ロビン・レ・ペドヴィン『時間と空間をめぐる12の謎』（岩波書店、2012年）
- ・信原幸弘『時間・自己・物語』（春秋社、2017年）
- ・ジル・ドゥルーズ『差異と反復〔上・下〕』（河出書房新社、2007年）
- ・斎藤慶典『哲学がはじまるとき 思考は何／どこに向かうのか』（ちくま書房、2007年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件
とくになし。

◆成績評価方法

授業最終日に行なう論述試験によります。

科目	倫理学特殊	2単位
担当	講師 西山晃生	

本講義では、現代の倫理学で論じられるテーマのうち、人間のあり方、とりわけ社会の中で生活することについて考えるとき重要なものを扱います。具体的には「自由とは何か」「行為に責任を取るべきであるのはどのような場合か」「幸福であるとはどういうことか」「動物とどう接するべきか」といった問題に触れる予定です。それぞれのテーマに関して、2～3回の講義で歴史的背景、論点、代表的立場を紹介します（現代の哲学者、倫理学者だけを取り上げるわけではありません）。

- 〔第1回〕 イントロダクション 自由（1）：決定論と非決定論、両立論と非両立論
- 〔第2回〕 自由（2）：両立論の諸相
- 〔第3回〕 自由（3）：ラディカルな非両立論
- 〔第4回〕 行為と責任（1）：意図的行為
- 〔第5回〕 行為と責任（2）：意図と予見
- 〔第6回〕 幸福（1）：幸福に関する諸論点
- 〔第7回〕 幸福（2）：快樂説と欲求説
- 〔第8回〕 幸福（3）：客観的リスト説
- 〔第9回〕 人間と動物（1）：動物をめぐる哲学者たちの議論
- 〔第10回〕 人間と動物（2）：動物の「解放」
- 〔第11回〕 人間と動物（3）：動物の「権利」
全体の復習・まとめ
- 〔第12回〕 試験・講評

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・小松光彦・樽井正義・谷寿美編『倫理学案内』（慶應義塾大学出版会、2006年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

予備知識は必要ありません。情報量が多くなるので、しっかり復習してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目	芸術学	2単位
担当	講師 大木麻利子	

造形芸術の諸問題を理論的に考察する、狭義における芸術学の授業です。

ジョルジュ・スーラ（1859-1891）とならぶ新印象

主義の画家ポール・シニャック（1863-1935）の新印象主義論とそのドイツにおける受容を手掛かりとして、近代的な「色彩画家」概念の成立と近代主義（モダニズム）美術史誕生の接点を探ります。

早世したスーラに献げられたシニャックの『ウジェーヌ・ドラクロワから新印象主義へ』（以下『新印象主義』と略す）は1899年に単行本として出版される前年、ドイツ語簡約版が雑誌掲載され、ユーゲントシュティール運動やドイツ語圏でのフランス近代美術受容に多大な影響を及ぼしたのみならず、シニャックの「色彩画家の進化発展」という歴史観は、いわゆる近代主義的／形式主義的美術史に基本的な発想を与えたと言われています。シニャックの新印象主義論のなかで最も主要な位置を占める画家ドラクロワ（1798-1863）の理論を、シャルル・ブラン（1813-1882）のドラクロワ解釈——この画家の彩色に科学者シュヴールールの発見したものと同様の色彩法則の適用を認め「近代の最も偉大な色彩画家」と賞賛した——に即して見たうえで、印象派・新印象派世代の「ドラクロワ礼讃」に認められる様式心理学的関心を取りだし、そうした関心が、近代芸術学の創始者フィードラー（1841-1895）没後の、ドイツ語圏の芸術学および美術史学によって共有されていることに眼を向けます。

- 〔第1回〕 導入 世紀末ドイツにおけるフランス近代美術受容とシニャックの新印象主義論
 〔第2回〕 マネと印象派の画家の二世代
 〔第3回〕 「デッサン画家」と「色彩画家」の伝統
 〔第4回〕 美術史学の方法論Ⅰ
 〔第5回〕 ドラクロワ礼讃Ⅰー画家ドラクロワと印象主義の先駆者たち
 〔第6回〕 ドラクロワ礼讃Ⅱー理論家ドラクロワ
 〔第7回〕 シャルル・ブランのドラクロワ論Ⅰ
 〔第8回〕 シャルル・ブランのドラクロワ論Ⅱ
 〔第9回〕 美術史学の方法論Ⅱ
 〔第10回〕 『新印象主義』のなかの印象派の画家とセザンヌ
 〔第11回〕 スーラの美学
 〔第12回〕 「ドラクロワ礼讃」から「セザンヌ礼讃」へ

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

第1回に出席できることが望ましい。
造形芸術の問題を扱う狭義の芸術学の授業であり、一般芸術学や美学の授業ではないことに注意してください。

◆成績評価方法

出席と持ち帰り試験で評価します。

科目	西洋美術史	2単位
担当	講師 大谷公美	

美術史における主題研究をイコノグラフィー（図像学）と呼びますが、美術作品（イメージ）の読解は、主題となるテキスト（福音書、外典偽典、宗教文学）や象徴・記号の特定から始め、技法、機能・役割（祭壇画・祈念像など）、注文主や社会背景までも考慮して初めて成立します。このような多角的視点からの作

品解釈をイコノロジー（図像解釈学）と言います。

本講義ではまず、キリスト教にまつわるさまざまな主題が、絵画や彫刻などの視覚芸術においてどのように表現されてきたかを学びながら、キリスト教図像学の初歩を習得します。

さらに作品解釈にあたって、図像学を含めた広い視野からアプローチする習慣を身につけます。

- 〔第1回〕 イントロダクションーキリスト教美術とはー／美術史情報（文献・画像）の探し方／レポートの書き方
 〔第2回〕 キリスト教美術の始まり1「葬礼芸術としての始まり」
 〔第3回〕 キリスト教美術の始まり2「国教化と芸術の変化」
 〔第4回〕 福音書の聖人ーブランカッチ礼拝堂
 〔第5回〕 伝説の聖人
 〔第6回〕 病と聖人
 〔第7回〕 カトリック改革とローマの美術1
 〔第8回〕 カトリック改革とローマの美術2
 〔第9回〕 マグダラのマリア1
 〔第10回〕 マグダラのマリア2
 〔第11回〕 マグダラのマリア3
 〔第12回〕 試験と総括
 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

美術史、キリスト教の知識がなくても理解できる初心者レベルを想定した講義です。できるだけ美術館を訪れる機会を作り、数多くの優れた作品を実際に鑑賞することを心がけてください。

◆成績評価方法

授業内レポートおよび試験による。

科目	音楽史	2単位
担当	講師 藤井孝一	

第2次世界大戦以降の音楽

この授業では、第2次世界大戦以降の音楽、特に1950年代から70年代の音楽を中心に扱います。第2次世界大戦後、特に1950年代から70年代にかけては、音楽がかつて無いほど多種多様な展開を見せた時期です。また、聴衆と作曲家達の間に埋め難い大きな溝が生じた時期でもあります。「現代音楽」と聞くと、まったく馴染みがないか、「難解な音楽」、「耳障りな音楽」という印象を持っている学生諸君も多いと思います。この授業では、1950年代から70年代を中心に戦後の音楽史を振り返りながら、21世紀に生きる我々の聴取態度について、学生諸君と一緒に考えてみたいと思います。20世紀前半の音楽状況や音楽用語などについても、必要に応じ随時補足します。視聴覚教材を用い、できるだけ多くの作品を（疑似）体験していただきながら授業を進めます。

初回により詳細なシラバスを配布しますが、概ね下記のトピックスを予定しています。

- 〔第1回〕 西洋音楽史の時代区分

- 〔第2回〕 第二次世界大戦前の状況（1）モダニズム
 〔第3回〕 第二次世界大戦前の状況（2）十二音技法（新ウィーン派）
 〔第4回〕 セリー主義（メシアン；ブーレーズ；シュトックハウゼン他）
 〔第5回〕 エレクトロニクス（シェフェール；シュトックハウゼン他）
 〔第6回〕 音塊（リゲティ；ペンデレツキ）
 〔第7回〕 20世紀音楽の記譜
 〔第8回〕 アメリカの実験音楽（ケージ；フェルドマン）
 〔第9回〕 ミニマリズム（ライリー；ヤング；グラス；ライヒ）
 〔第10回〕 戦後日本の「現代音楽」（黛；武満）
 〔第11回〕 “ロックンロール”の成立から“ロック”へ
 〔第12回〕 総括；試験

◆テキスト

特に指定しません。レジュメ、資料は、毎回プリントを配布し、PowerPoint / Keynoteを用い映写します。

◆参考文献

手頃な通史の参考書としては下記文献を推薦します。
 ・久保田慶一他『はじめての音楽史—古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで〔増補改訂版〕』（音楽之友社、1996年/2009年）

既に何らかの音楽事典や音楽史概説の書籍を所有している学生は、改めて購入の必要はありません。

その他、初回に基本的なリファレンスの一覧を配布し、講義中にも適宜指示します。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講を制限するものでもなく、成績評価に直接影響するものでもありませんが、講義内容をよりよく理解するためにも、簡単な譜例が理解できる程度の楽典の基礎知識があることが望ましいです。（成績評価には楽典の知識、技能は一切影響しません。）

また、たとえ「耳障り」で「難解」な音楽であっても、アカデミックかつ真摯な態度で作に接してくれること、大人数であっても積極的にクラスに参加してくれることを期待しています。

受講にあたって予習をしておきたいという学生の方は、任意の音楽史の概説書の20世紀の音楽に関する各章に目を通しておかれると良いでしょう。また、高校の「世界史」の教科書、参考書などで、近代西洋史について基礎的な文献を一読しておくこともお勧めします。

時間の制限上、講義中に鑑賞できる作品の数はどうしても限られてきます。講義の中で言及する作品については、講義の中で鑑賞するか否かにかかわらず、キャンパス内でのみ利用可能な音楽配信サービス(Naxos)のプレイリストを用意する予定です。講義の空き時間などを活用し利用してください。（スマートフォン／タブレット端末での利用は不可。Mac/WindowsのPCのみでの利用となります。）利用に際しては、キャンパス内のITサイトを利用するアカウント（ITCアカウント、有料）が必要となります。このサービスを利用するか否かは試験など成績評価には直接影響しません。あくまで向学心旺盛な学生諸君の予復習への対応が目的です。

◆成績評価方法

最終日に授業内試験を行います（持込可）。リスニング問題を含む論述問題3～5題の出題を予定しています。詳細は初回に説明し、授業内でも随時指示します。

科目 社会心理学（専門）

2単位

担当 講師 村山 陽

本授業では、社会心理学の基礎的知識を学ぶとともに、それを高齢社会の社会問題の解明に応用することを目指します。社会心理学とは、「心と社会との関係」を扱う学問です。研究対象は、個人、対人関係、集団・組織、社会全体と幅広く、様々な学問領域との相互連携が展開されております。そのため、高齢社会が抱える諸問題（高齢者への偏見、世代間ギャップ、高齢者介護など）の解決に向けて、社会心理学の知識が活用されることが大いに期待されます。

- 〔第1回〕 社会心理学とは（1）：社会心理学の歴史・概念
 〔第2回〕 社会心理学とは（2）：社会心理学の研究
 方法
 〔第3回〕 自己認知：自分を知る
 〔第4回〕 対人認知（1）：人は人をどう見るのか
 〔第5回〕 対人認知（2）：ステレオタイプについて
 〔第6回〕 社会的影響（1）：社会的促進と社会的手
 抜き
 〔第7回〕 社会的影響（2）：同調行動について
 〔第8回〕 攻撃と援助
 〔第9回〕 態度変容（1）：態度とは
 〔第10回〕 態度変容（2）：さまざまな説得方法
 〔第11回〕 高齢社会の社会心理学
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

・山岸俊男編『社会心理学キーワード』（有斐閣、2001年）、その他にプリントを適時配布する。

◆参考文献

- ・山田一成他『よくわかる社会心理学』（ミネルヴァ書房、2007年）
 ・加藤潤三他『コミュニティの社会心理学』（ナカニシヤ出版、2013年）
 ・我妻洋『社会心理学入門 上・下』（講談社、1987年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

受講前に専門的知識は必要ありませんが、授業中に紹介される参考文献をできるだけ読んでもらいたいと思います。

◆成績評価方法

最終日の試験、出席状況、受講態度により評価します。

科目 宗教学

2単位

担当 講師 正木 晃

いま、世界を動かしているのは政治と経済、そして宗教です。かつて東西冷戦が終わったとき、宗教がこれほど大きな力を持つとは予想されませんでした。しかし、いま、宗教抜きに世界の動向も未来は考えられません。本授業では、宗教を既存の枠組みにこだわら

ず、可能な限り多方面から考察します。人を救うはずの宗教が、なぜ人を殺すのか。人類に宗教は必要なのか不必要なのか…などの課題を、偏りなく冷静に学びます。文献だけに頼らず、美術や音楽、ときにはアニメなども考察の対象として、「宗教とは何か？」を問うていきます。

〔第1回〕「宗教はなぜ人を殺すのか」(セム型一神教)

宗教は人を救うはずではなかったのか。昨今、世界各地で頻発している宗教絡みの暴力を見聞きするとき、多くの方はこんな疑問を抱くと思います。いや、原因は宗教そのものではなく、政治や経済の問題が、宗教という形をとって噴出していると説明されがちですが、それは真実でしょうか。実際は、宗教の中に暴力を肯定し、殺人を正当化する要素があるのではないのでしょうか。そもそも宗教が求める「平和」は、私たちが常日頃イメージしている「平和」と全く同じなのでしょう。これらの疑問を、世界に多くの信者を持つ宗教を対象に、聖典と歴史的な事実を学びながら、考えていきます。第一回目はセム型一神教(イスラム教・キリスト教)です。

〔第2回〕「宗教はなぜ人を殺すのか」(仏教)

仏教は世界宗教の中で最も非暴力的で、平和的とみなされています。確かにセム型一神教に比べれば、仏教はおとなしい宗教と言えます。しかし、歴史を冷静に振り返ってみると、その仏教でさえも戦争や殺人に手を貸してきた事実遭遇します。たとえば日本の戦国時代、武将たちは敵を殺す目的で、仏教に戦勝祈願を依頼していました。鎌倉時代の元寇のような対外的な危機では、怨敵降伏と称し、仏教の力を使って、敵を呪い殺そうとしました。明治以降になると、日本の仏教界はあげて戦争に協力しました。最近では、仏教教団を名乗っていたオウム真理教が、無差別テロを実行しています。実は仏教にも暴力を肯定し、殺人を正当化する要素があるのではないのか。この疑問を解明していきます。

〔第3回〕「宗教の構造」

ひとくちに「宗教」と言っても、その内実は複雑です。「宗教とは……」と定義されますが、この種の定義は多くの場合、キリスト教を中心とするセム型一神教の宗教観に由来していて、セム型一神教以外の宗教には、必ずしもあてはまりません。第3回では、従来の定義にこだわらず、神・人間・自然という三つに要素を軸に、世界各地の宗教の構造を考えます。その際、当然ながら、神と何か？ も問うことになります。たとえば、セム型一神教では神と人間の間は、原則として断絶しています。人は絶対に神にはなれません。しかし日本の宗教では、仏教であろうと神道であろうと、神と人間の境界は曖昧です。人は死ねば、仏になり神になります。それはなぜなのか。問うにあたいする課題です。

〔第4回〕「アニメとアニミズム」

日本の現代文化を考えると、アニメは絶対に無視できません。アニメの語源は、この世の森羅万象に靈魂が宿っているとみなすアニミズムです。日本人の宗教観の奥底には、このアニミズムがあるとよく指摘されます。日本がアニメ大国になれた原因は、実はそこにあるのです。第4回では、宮崎アニメを題材に、日本人の宗教観を問います。なぜ宮崎アニメなのか。そ

の理由は、宮崎アニメが最もうまくかつ深く日本の伝統宗教を取り込んでいるからです。授業では実際にアニメを見ながら、どこにどういうぐあいに、アニミズムが表現されているか、具体的にみていきます。

〔第5回〕「修行とは何か」

仏教では、ごく僅かな例をのぞけば、修行します。しかし、セム型一神教では、原則として、修行は厳禁されます。この違いはきわめて大きいと言えます。では、なぜ、仏教では修行が必要であり、セム型一神教では修行が厳禁なのか。この違いを考えることは、仏教とセム型一神教の根本的な違いを知るために、絶対に欠かせません。また、現代では、心身の不調に悩む人々が、さまざまな形で「修行」に挑戦しています。ほんとうに、「修行」によって、心身の不調は改善するのか。もしするとすれば、それはどのようなメカニズムなのか。これらも第5回目のテーマになります。

〔第6回〕「死後世界のイメージ」

宗教にとって、最大のテーマは死後における救済です。現代社会では、死んでしまった後よりも生きている間の救済が優先されがちですが、死後における救済を無視して宗教は成り立ちません。私たちがこのテーマを理解するためには、言葉はあまり役に立ちません。役に立つのは図像表現です。つまり宗教的な絵画が最も有効なすべなのです。第6回目では、世界中の宗教がイメージしてきた死後世界の姿を、豊富な視覚資料を見ながら、読み解いていきます。理想の死後世界とされる極楽や天国。逆に絶対に行きたくない死後世界の典型例である地獄。これらの視覚的なイメージは、それぞれの宗教を、いままでとは異なる角度から知るための格好の手段です。

〔第7回〕「日本人の靈魂観」

靈魂は本当に有るのか無いのか。これは永遠の謎です。なぜなら、どんなに科学が進んでも、死後世界を客観的に知るすべは見つかりそうにないからです。それはさておき、私たち日本人は、靈魂について、どんなイメージを持ってきたのでしょうか。現時点で言うことは、縄文時代の中期から、日本列島に居住してきた人々は、ほとんど例外なく、靈魂の存在を前提として、宗教的な活動をおこなってきたという事実です。いまでも、たとえば東日本大震災以降の北東北では、幽霊がよく出ていると報道されています。幽霊は実在するか否かはしばらく問わないとしても、幽霊を見た人がかなりいるという事実は見逃せません。第7回目では、伝統宗教にあらわれた絵画表現なども参考にしながら、日本人の靈魂観を考えていきます。

〔第8回〕「般若心経と空と日本人」

般若心経は現代の日本で最も人気のある仏教經典です。しかし、本当はこれほど難解な經典もないのです。その理由は、般若心経は説く「空」というコンセプトが、きわめて難解だからです。この「空」というコンセプトは、仏教の本質を考えると、決して無視できない重要な要素です。また、この「空」くらい、時代と地域によって、その意味が変転してきた事例はありません。生まれ故郷のインドと日本では百八十度、解釈が異なります。なぜ、日本人は般若心経がこれほど好きなのか。般若心経が伝えようとしてきた真意は何か。わかりやすく読み解いていきます。

〔第9回〕「仏像と日本人」

最近では史上最高とも言っているほど、仏像ブームです。展示によっては、美術館に入館待ちの人々の長い列ができています。しかし、今のようなブームには、仏像と向き合う理想の形とは言えないものがあります。なぜなら、最近のブームは、あくまで美術鑑賞の対象として仏像が人気を集めているということであり、仏像本来のありかたとはいちじるしくずれているからです。仏像は礼拝の対象であり、美術鑑賞の対象ではないようです。では、なぜ、仏像が礼拝の対象から美術鑑賞の対象に変容したのか。その原因を問うことは、現代日本における宗教のありかたを考えるうえで、重要な手掛かりになりそうです。第9回目では、仏像制作の目的から出発して、最近の仏像ブームにいたる過程をたどって、日本人の精神性がどのように変化してきたのか、考察します。

〔第10回〕「仏教美術の諸相」

仏教の中でも、最後発の密教とよばれるタイプの仏教は、その教えがあまりに複雑かつ深遠になってしまったゆえに、もはや言葉のみでは、教えを伝えられないと見切りを付け、視覚表現の領域に心血を注いできました。その結果、日本に残る宗教美術のおそらく80%以上は密教にかかわっています。実は運慶や快慶が制作した仏像も、大半は密教像でした。そしてその出発点は、日本に密教を伝えた空海でした。第10回目は、空海は密教像に託した思いやその後の展開を、画像を見ながら、考えていきます。

〔第11回〕「マンダラの可能性」

マンダラは密教がその深遠な教えを、言葉ではなく、視覚表現を通じて、伝達するために開発した図像です。いまなお密教が活動する日本とチベットには、またのマンダラが見られます。しかも過去の遺物ではなく、現代社会の苛酷な状況に、心身を病む人々を癒す力を秘めているとも言われます。色彩も形態もすこぶる多様でありながら、絶妙な統一感の感じられることが、心に良い影響をもたらすのかもしれない。第11回目では、歴史的な産物であったマンダラを現代に再生させた「マンダラ塗り絵」を実際に体験することで、宗教的な智慧を、現代に生かす実例を試みます。マンダラに私たちの内面がどのように映し出されるのか。まことに興味深い実験です。

〔第12回〕「21世紀に宗教は必要か」

ここまで11回にわたって続けてきた考察をもとに、21世紀における宗教の是非、あるいは意味を論じます。宗教には、プラスの面もあれば、マイナスの面もあります。私たちがより良く生きていくために、まだ宗教は必要なのか。それとも、もはや不必要なのか。もし宗教なき世界が到来するとすれば、その世界はどのような世界なのか。いま、私たちが考えるべきことからは、いろいろありそうです。もちろん、これは結論の出る話ではありません。今よりもっと深く考えるきっかけになれば、それで十分とも言えます。

〔その他〕課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・正木晃『宗教はなぜ人を殺すのか』（さくら舎、2018年）
- ・正木晃『お坊さんのための「仏教入門」』第3版（春

秋社、2013年）

◆成績評価方法

各回ごとに提出するミニレポート、ならびに最終回近くに提出するレポート（3000字程度）・マンダラ塗り絵を総合して、成績評価とする。

科目 心理学特殊

2単位

担当 文学部教授 梅田 聡

本講義では、「脳と心」の関係性を探る学問である認知神経科学（cognitive neuroscience）に焦点を当てる。認知神経科学の主な方法論としては、1）脳損傷や精神神経疾患の症例を対象とする神経心理学研究、2）fMRI、PET、脳波計などを用いる脳機能画像研究、3）認知心理学の実験的基礎研究が挙げられる。本講義では、主に、情動・記憶・社会性に焦点を当て、これらの方法論による最新の研究成果について触れる。

〔第1回〕 認知神経科学とはどのような学問か

〔第2回〕 構造と機能からみた人間の神経システム

〔第3回〕 情動の神経基盤

〔第4回〕 情動と内受容感覚

〔第5回〕 自律神経システムからみた情動

〔第6回〕 前頭葉機能と社会的認知

〔第7回〕 反社会性人格とサイコパス

〔第8回〕 神経発達障害における情動と社会性の障害

〔第9回〕 記憶の神経基盤

〔第10回〕 健忘症のタイプと症状の見方

〔第11回〕 認知症のタイプと症状の見方

〔第12回〕 総括

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・梅田聡他（編著）『共感』（岩波書店、2014年）
- ・ジョセフ・ルドゥー『エモーショナル・ブレイン』（東京大学出版会、2003年）
- ・アントニオ・ダマシオ『デカルトの誤り：情動、理性、人間の脳』（ちくま学芸文庫、2010年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義内容が連続しているため、なるべくすべての講義に出席してください。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 教育心理学概論

2単位

担当 文学部教授 安藤寿康 / 講師 福富隆志

幼児、児童及び生徒の心身の発達・学習・教育に関わるさまざまな心理学知見を、科学的な理論とエビデンスに基づき、特に重要な三つの領域「発達」「学習」「学習環境と教育実践」の視点から概説し、教育との関連を考察する。

〔第1回〕 教育心理学とは

〔第2回〕 発達とは何か

〔第3回〕 パーソナリティ（パーソナリティの理論、

パーソナリティの構成、パーソナリティへの介入)

- 〔第4回〕 学習とは何か
- 〔第5回〕 知識獲得（記憶の3段階、短期記憶、長期記憶、読解による知識獲得）
- 〔第6回〕 思考（思考とは何か、問題解決、思考力を育む）
- 〔第7回〕 動機づけ（動機づけとは何か、認知論的アプローチ、欲求論的アプローチ、感情論的アプローチ、教育環境と動機づけ）
- 〔第8回〕 教育実践とは何か
- 〔第9回〕 教育方法（学習の理論と教育方法、発達過程と教育方法、授業をつくる、特別なニーズをもつ子どもへの学習支援、教育方法における今後の課題）
- 〔第10回〕 学習評価（学校での学習における評価、学習評価の方法、学習を促進する評価）
- 〔第11回〕 学習環境と個性（教授学習過程と学習者の個人差、適性処遇交互作用（ATI）、学習能力の個人差、予習の効果におけるATI、個人差の問題を扱った英語の教育実践に関する研究、ATI研究に基づく個別指導の時代をめざして）
- 〔第12回〕 総括
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・安藤寿康・鹿毛雅治編著『教育心理学』（通信テキスト、2013年、文学部IV年度①配本）
- ・鹿毛雅治編著『教育心理学』（朝倉書店、2006年）

◆成績評価方法

出席状況、レポートと定期試験による。

科目 図書館・情報学

2単位

担当 講師 長谷川豊祐

図書館情報学について学ぶとともに、大学生・社会人としての基本的情報リテラシーを学びます。情報を

正しく理解・評価・活用する基本的能力について、講義と演習によりスキルを高めます。レポートや論文の執筆に必要な文献の調査・入手、論文のテーマ設定などの実践的な知識が身に付きます。

- 〔第1回〕 オリエンテーション：論文執筆や課題解決ツールとしての「図書館・情報学」
- 〔第2回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」（1）
- 〔第3回〕 メディアを組織化して利用者に提供する仕組みとしての「図書館」（2）
- 〔第4回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」（1）
- 〔第5回〕 情報を蓄積し伝達する図書、雑誌、インターネットなどの「情報メディア」（2）
- 〔第6回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」（1）
- 〔第7回〕 情報メディアの収集、提供、保管を行うための「資料組織」（2）
- 〔第8回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」（1）
- 〔第9回〕 データベースやインターネットで情報を探索・入手するための「情報検索」（2）
- 〔第10回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」（1）
- 〔第11回〕 社会人に必要なコミュニケーション技術としての「情報発信・学術情報流通」（2）
- 〔第12回〕 試験・講評
- 〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

講義中に提示します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義の理解を助けるために、出席確認を兼ねた簡単な理解確認シートの提出を求めます。学術論文の検索・要約の演習として、講義時間外での2回程度の課題提出を求めます。参考資料を講義中に提示します。

◆成績評価方法

理解確認シートの提出、受講態度、課題提出、試験（最終回）により総合的に評価します。

第2類に属する科目

科目 日本史特殊

2単位

担当 文学部准教授 上野大輔

日本における近世国家の成立と身分制の構造について講義する。それを通じて、日本近世史の知識を習得すると共に、時代の特質について理解を深めることを目指す。

初回に「近世」という時代区分の特質を簡単に押さえた上で、第2～6回で国家体制成立の諸相を検討し、第7～11回では社会を構成する諸身分を順次取り上げる。そして最終回には筆記試験を実施し、本授業の総括を行うというプランである。

講義に際しては、日本近世史の事実関係を確認するだけではなく、具体的な先行研究を取り上げて吟味し、以て研究史上の課題も示したい。また各回の内容は、全体プランの一環であると同時に、独自の広がりをするものとした。

- 〔第1回〕 「近世」とは何か
- 〔第2回〕 織豊政権
- 〔第3回〕 検地と石高制
- 〔第4回〕 対外関係の推移
- 〔第5回〕 キリシタン禁制
- 〔第6回〕 天下人の神格化
- 〔第7回〕 幕藩領主
- 〔第8回〕 朝廷

2019年度夜間スクーリング

- 〔第9回〕 村と百姓
- 〔第10回〕 町と町人
- 〔第11回〕 寺社
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

ご質問は授業終了後をお願いします。

◆成績評価方法

試験で評価する。

科目 西洋史特殊

2単位

担当 講師 綾辺昌朋

独立革命期から1960年代までのアメリカ史を概観します。授業は大まかに時代を追って進めますが、内容は概説的ではなく、かなり特殊なものになります。教科書ではあまり扱われないようなエピソードをたくさん紹介します。例えば、秘密結社、自警団、リンチの話が登場します。この授業を通して、アメリカ民主主義の多様な側面にふれていただけたら幸いです。

- 〔第1回〕 独立革命期のアメリカ（18世紀後半）
- 〔第2回〕 建国初期のアメリカ（19世紀前半）
- 〔第3回〕 西部開拓地の民主主義（19世紀中頃）

- 〔第4回〕 ネイティヴィズムの高まり（1840年代～1850年代）
- 〔第5回〕 南北戦争期のアメリカ（1850年代～1870年代）
- 〔第6回〕 経済発展とそのひずみ（19世紀後半）
- 〔第7回〕 人種と暴力（19世紀末～20世紀初め）
- 〔第8回〕 移民規制運動（19世紀末～20世紀初め）
- 〔第9回〕 第一次世界大戦期のアメリカ（1910年代後半）
- 〔第10回〕 新しいアメリカと古いアメリカ（1920年代）
- 〔第11回〕 超大国の栄光と挫折（1950年代～1960年代）
- 〔第12回〕 試験・総括

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特に教科書や参考書は指定しませんが、アメリカ史の概説書を読んでおくとういと思います。授業の内容が分かりやすくなります。概説書は購入する必要はなく、図書館でざっと目を通すくらいで十分です。また、歴史の授業ですが、年号や人物名などを暗記することはありません。授業の内容そのものを楽しんでください。カジュアルな授業なので、リラックスして参加してください。

◆成績評価方法

最終日の筆記試験で評価します。

第3類に属する科目

科目 国文学

2単位

担当 文学部准教授 合山林太郎

古代より漢文学は日本人にとっての基礎教養であり、多くの漢詩や漢文が日本人の手によって作られた。この授業では、とくに江戸・明治期の漢文学の特色や意義について、近世の儒者・詩人から近代の小説家、政治家にいたるまで、様々な人物の作品を取り上げつつ、論じてゆく。必要に応じて、江戸時代の漢詩や近代小説などについても言及する。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 江戸漢詩の流れをたどる一富士山を例に
- 〔第3回〕 漢文戯作・狂詩
- 〔第4回〕 永井荷風『下谷叢話』と大沼枕山
- 〔第5回〕 彰義隊の墓碑と漢詩
- 〔第6回〕 幕末の史論と楠木正成一福沢諭吉との関わりを視野に入れながら
- 〔第7回〕 明治10年代の漢詩世界—『新体詩抄』との関わりを視野に入れながら
- 〔第8回〕 明治20年代の漢詩世界—『舞姫』をめぐる漢詩人たち
- 〔第9回〕 鷗外、子規の漢詩の位置
- 〔第10回〕 夏目漱石の漢詩の可能性
- 〔第11回〕 近世・近代の詞華集と名詩—広瀬淡窓をめぐって—
- 〔第12回（最終回）〕 まとめ・最終試験

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆学生に対する受講上の要望、または受講上の前提条件

とくに漢文の知識は必要ありません。漢文や漢詩については、大意などを説明しつつ、可能なかぎり、わかりやすく講義してゆきます。

◆成績評価方法

最終日のテスト及び授業への参加状況による。

科目 中国文学

2単位

担当 講師 植松公彦

唐李瀚撰の『蒙求』は中国古代の著名人の伝記・逸話を集めた、当時の児童向けの教科書で、平安時代にはすでに日本にも伝わり、漢文初学者向けの教科書として広く長く用いられて、日本人の中国古代に対する知識・教養の源泉の一つになりました。

本講義では皆さんと一緒に『蒙求』の何篇かを読んで、漢文の歴史・文法・語彙などを学びながら、『蒙求』の内容を味わい、その背景にある、中国の伝統的な物事の見方について考えて、皆さんが今後も漢文を読んでいくための素地を養います。

- 〔第1回〕 日本における漢文の受容と展開について
- 〔第2回〕 『蒙求』と李瀚について
- 〔第3回〕 「邵詵一枝」を読む（1）
- 〔第4回〕 「邵詵一枝」を読む（2）
- 〔第5回〕 「戴憑重席」を読む（1）

- 〔第6回〕「戴憑重席」を読む（2）
 〔第7回〕「鄒陽長裾」を読む（1）
 〔第8回〕「鄒陽長裾」を読む（2）
 〔第9回〕「王符縫掖」を読む（1）
 〔第10回〕「王符縫掖」を読む（2）
 〔第11回〕「薦蒙求表」を読む
 〔第12回〕試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布します。

◆参考文献

- ・加藤徹『漢文の素養—誰が日本文化をつくったのか？』光文社新書（光文社、2006年）
- ・金文京『漢文と東アジア—訓読の文化圏』岩波新書（岩波書店、2010年）
- ・齋藤希史『漢文脈と近代日本』角川ソフィア文庫（KADOKAWA、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

中学・高校で学ぶ程度の漢文は、皆さんが読んだ経験のあることを前提に講義を進めます。予習は必ずしもいりませんが、漢和辞典も引いて、復習は必ずしてください。

◆成績評価方法

授業への参加度・最終日の試験によります。

科目 英米散文研究

2単位

担当 文学部教授 原田範行

本授業は、英語の（韻文ではなく）散文で書かれた文章（主に小説）の精読と考察を通じて、散文による文章表現の多様な特質と表現内容の広がり、またそうした散文表現によって喚起される想像力や創造力の可能性について考究することを目的としています。今回は、市民社会の成立や小説という表現ジャンルの誕生の時期に出版され、今日でも世界的名作として多くの読者を魅了しているジョナサン・スウィフトの『ガリヴァー旅行記』を対象とします。各回の授業計画は次の通りです。

- 〔第1回〕 イントロダクション（1）：18世紀イギリスと『ガリヴァー旅行記』の世界
 〔第2回〕 イントロダクション（2）：諷刺表現と言語の多義性
 〔第3回〕 第1篇（リリパット（小人国））研究（1）：人物描写と意味の重層性
 〔第4回〕 第1篇（リリパット（小人国））研究（2）：リリパットとイギリス、フランス、アイルランド
 〔第5回〕 第2篇（プロブディンナグ（大人国））研究（1）：常識・既成観念に対する挑戦
 〔第6回〕 第2篇（プロブディンナグ（大人国））研究（2）：描写力・理解力と支配・非支配
 〔第7回〕 第3篇（ラピュータ（空飛ぶ島）、バルニバービ（下の島）ほか）研究（1）：舞台設定と人物描写の特徴
 〔第8回〕 第3篇（ラピュータ（空飛ぶ島）、バルニバービ（下の島）ほか）研究（2）：アカデミーと言語改革のゆくえ
 〔第9回〕 第3篇（ラピュータ（空飛ぶ島）、バルニ

- バービ（下の島）ほか）研究（3）：『ガリヴァー旅行記』における日本表象の意味
 〔第10回〕 第4篇（フウイヌム（馬）とヤフーの社会）研究（1）：フウイヌムは理想社会か？
 〔第11回〕 第4篇（フウイヌム（馬）とヤフーの社会）研究（2）：『ガリヴァー旅行記』の結末の解釈をめぐって

〔第12回〕 試験と総括

〔その他〕 毎回（第1回と第12回を除く）、小課題への回答を求めます。

◆テキスト

使用する教科書は次の通りです。

- ・Jonathan Swift, Gulliver's Travels, ed. Claude Rawson, Oxford World's Classics (Oxford: Oxford UP, 2005) ISBN 978-0-19-953684-9

◆参考文献

参考文献は次の通りです（より詳しくは、授業中にご紹介します）。

1. Christopher Fox, ed., The Cambridge Companion to Jonathan Swift (Cambridge: Cambridge UP, 2003)
2. 原田範行ほか『「ガリヴァー旅行記」徹底注釈』（岩波書店、2016年）
3. 平井正穂訳『ガリヴァー旅行記』（岩波文庫、1980年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特にありませんが、（翻訳ではなく）英語の原文をしっかりと読むように努めてください。

◆成績評価方法

最終日の試験（60%）、小課題の提出状況（計20%）、積極的な授業への参加（ディスカッションや発表、予習状況などによる、計20%）を総合的に勘案して成績評価をします。

第1・2・3類共通科目

科目 総合講座 「総情報化社会と法」

2単位

コーディネーター 法学部教授 佐藤拓磨
 法学部教授 大屋雄裕 / 講師 尾崎愛美 / 講師 笠原毅彦
 担当 講師 張 睿暎 / 法学部教授 丸山絵美子 / 法学部教授 柳 明昌
 法務研究科教授 山本龍彦 / 法学部教授 山本爲三郎

講義要綱は79頁を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、文学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

【第1類に属する科目】

科目 哲学特殊 2単位

担当 講師 鈴木 平

経済学部専門教育科目「社会思想史」(62頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 齋藤香里

経済学部専門教育科目「社会政策」(62頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 永井攻治

経済学部専門教育科目「社会福祉論」(63頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 鈴木慶孝

法学部専門教育科目「社会学特殊」(72頁)を参照してください。

科目 マス・コミュニケーション論 2単位

担当 講師 山口 仁

法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」(73頁)を参照してください。

科目 哲学特殊 2単位

担当 法学部教授 堤林 剣／講師 梅澤佑介

法学部専門教育科目「政治思想論」(73頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 李 錫敏

法学部専門教育科目「国際政治論」(74頁)を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 法学部教授 小川原正道／講師 門松秀樹

法学部専門教育科目「日本政治論」(76頁)を参照してください。

【第2類に属する科目】

科目 西洋史特殊 2単位

担当 講師 篠原洋治

経済学部専門教育科目「専門外国書講読(英書)」(61頁)を参照してください。

科目 人文地理学 2単位

担当 講師 花島誠人

経済学部専門教育科目「経済地理」(65頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位

担当 講師 三田奈穂

法学部専門教育科目「法制史」(72頁)を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位

担当 講師 小田義幸

法学部専門教育科目「日本政治史」(75頁)を参照してください。

科目 西洋史特殊 2単位

担当 法学部教授 出岡直也／講師 本谷裕子／講師 山脇千賀子

法学部専門教育科目「地域研究(ラテンアメリカを事例に、地域研究の方法)」(76頁)を参照してください。

3 経済学部専門教育科目

科目 経済原論（ミクロ経済学）

2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

この授業の前半では、競争的な市場における需要と供給についての標準的な理論について解説します。後半では、「リスクと不確実性」および「情報の非対称性」といったトピックを扱います。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 予算制約と無差別曲線と需要曲線
- 〔第3回〕 顕示選好と as if theory
- 〔第4回〕 エッジワースの箱と一般均衡
- 〔第5回〕 利潤最大化と供給曲線
- 〔第6回〕 需要と供給
- 〔第7回〕 リスクと不確実性（1）：期待効用仮説
- 〔第8回〕 リスクと不確実性（2）：アレの反例とエルズバークの壺
- 〔第9回〕 情報の非対称性（1）：アドバース・セレクション
- 〔第10回〕 情報の非対称性（2）：モラル・ハザード
- 〔第11回〕 問題演習
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・神取道宏『ミクロ経済学の力』（日本評論社、2014年）
- ・奥野正寛『ミクロ経済学入門』2版（日経文庫、1990年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

微分や積分はほとんど使いません。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 計量経済学

2単位

担当 講師 金 志映

計量経済学は複雑な経済事象を、数量的に解明することを目的としている。具体的には、経済に関する何らかの仮説があり、これを検証するために実験計画をたて、実際に実験を行い、仮説の真偽を検討するという作業を行う。例えばガソリン価格の高騰は、ガソリンと補完関係にある自動車の需要にも影響を与えると考えられる。この影響を数量的に把握するために、ガソリン価格や自動車の販売台数といった資料を収集して解析することが行われている。このような一連の作業は、自然科学の諸分野と類似しているものの、経済学には統御実験ができないという特有の問題があり、仮説を検証できるような実験計画の立案を非常に困難にしている。本講義ではこのようなことを念頭におきながら、古典的回帰モデルを中心に一般に行われている実証分析の手法を、なるべく平易に解説していきたい。講義は概ね以下の内容を取り上げる予定であるが、履修者の状況によって適宜修正する。

〔第1回〕 計量経済学とは：実験計画と資料の収集、

計量経済学の歴史的な流れ、なぜ計量経済学が必要なのか

- 〔第2回〕 確率と統計のおさらい：データの扱い方、計量経済学のための確率論
- 〔第3回〕 最小二乗法（I）：線形関係の推定、最小二乗推定値
- 〔第4回〕 最小二乗法（II）：決定係数
- 〔第5回〕 単純回帰分析（I）：単純回帰モデル
- 〔第6回〕 単純回帰分析（II）：推定量 α と β の期待値と分散、最良線型不偏性と一貫性
- 〔第7回〕 単純回帰分析（III）：t検定、予測
- 〔第8回〕 多重回帰分析：多重回帰モデル、自由度調整済み決定係数
- 〔第9回〕 F検定、多重共線性
- 〔第10回〕 特殊な変数：ダミー変数、トレンド変数
- 〔第11回〕 標準的仮定が満たされない場合：系列相関、不均一分散等
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・山本拓『計量経済学』（新世社、1995年）
- ・田中隆一『計量経済学の第一歩』（有斐閣、2015年）
- ・松浦寿幸『Stataによるデータ分析入門 第2版 経済分析の基礎からパネル・データ分析まで』（東京図書、2015年）
- ・秋山裕『Rによる計量経済学〔第2版〕』（オーム社、2018年、市販書採用科目「計量経済学」指定テキスト、経済学部IV年度①配本）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

1. 微分積分、確率の初歩的知識を身に付けていること。
2. 「統計学」（テキスト・スクーリング、いずれも可）を履修済みであることを前提とする。
3. 経済事象に関する疑問や仮説を具体的にもって講義に臨むと、内容を理解しやすいと思われる。

◆成績評価方法

出席状況および最終日の試験の結果による評価。

科目 専門外国語講読（英書）

2単位

担当 講師 篠原洋治

本講座では、近年の歴史・思想史の分野で、方法論的に意欲的な論文を読みます。授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献を紹介しながら内容の補足説明をしていきます。

今年度は、ロバート・ダーントンとダニエル・ロッシュ編纂の『出版物における革命—1775年から1800年までのフランスの出版事情』（Robert Darnton and Daniel Roche, editors, *Revolution in print: the press in France, 1775-1800*, Berkeley, 1989.）から、ダーントンとロッシュの論文を抜粋し読みます。ロッシュは旧体制下の検閲について、ダーントンは地下出版物の流通について書いています。

啓蒙思想がフランス革命をもたらしたという教科書の言説が疑問視されて久しいなか、旧体制下の書物の出版や流通の実地を知ることは思想史にとっても重要なことです。

- 〔第1回〕 イントロ - アナール派について
- 〔第2回〕 Censorship and the publishing industry (Daniel Roche)
- 〔第3回〕 Censorship and the Politics of the Book
- 〔第4回〕 Censors and Society
- 〔第5回〕 Censorship and Compromise, Prohibition and Conventions
- 〔第6回〕 The Book Police, The Publishing Industry and Surveillance
- 〔第7回〕 Philosophy under the cloak 1 (Robert Darnton)
- 〔第8回〕 Philosophy under the cloak 2
- 〔第9回〕 Philosophy under the cloak 3
- 〔第10回〕 Philosophy under the cloak 4
- 〔第11回〕 Philosophy under the cloak 5
- 〔第12回〕 まとめと試験

◆テキスト

プリントを配布する。

◆参考文献

- ・ロバート・ダーントン『革命前夜の地下出版』(岩波人文書セレクション、2015年)
- ・ロバート・ダーントン『禁じられたベストセラー—革命前のフランス人は何を読んでいたか』(新曜社、2005年)

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

必ず予習をして来てください。

◆成績評価方法

出席ならびに担当箇所の翻訳など平常点を重視し、最終日の試験も考慮に入れます。

科目 社会思想史

2単位

担当 講師 鈴木 平

社会思想史は、今とは異なる社会の、私たちが共有していない価値観を含む思想の歴史です。過去の思想を既成概念や先入観を通さずに学ぶことで、私たちはそれまで信じてきたことや世界観を客観的に見ることができるようになります。ときには再考や反省を余儀なくされるかもしれませんが、そのような経験を積み重ねるうちに、私たちの社会が直面している様々な問題について、公平な立場から熟考するための素地を、自らの内に育むことができるようになるでしょう。このことは、思想の歴史から私たちが学ぶことができるもっとも大切な意義のひとつではないでしょうか。

この講義では、近代の西洋思想のあゆみをたどりながら、近代と向き合い、社会を牽引した思想家たちの思考のエッセンスについて考察したいと思います。

- 〔第1回〕 はじめに—社会思想とは何か
- 〔第2回〕 マキアヴェリ社会思想
- 〔第3回〕 宗教改革社会思想
- 〔第4回〕 古典的「社会契約」思想の展開
- 〔第5回〕 ルソーの文明批判と人民主権論

- 〔第6回〕 スミスにおける経済学の成立
- 〔第7回〕 「哲学的急進主義」の社会思想—保守から改革へ
- 〔第8回〕 J・S・ミルにおける文明社会論の再建
- 〔第9回〕 西洋文明の危機とヴェーバー
- 〔第10回〕 現代「リベラリズム」の諸潮流
- 〔第11回〕 社会思想の歴史から何を学ぶか
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

- ・坂本達哉『社会思想の歴史—マキアヴェリからロールズまで』(名古屋大学出版会、2014年、市販書採用科目「社会思想史」指定テキスト、経済学部IV年度①配本)

◆参考文献

- ・水田洋『新稿 社会思想小史』(ミネルヴァ書房、2006年)

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

テキストの内容に即しながら、簡単なレジュメの作成等を行っていただく場合がございます。

◆成績評価方法

授業への参加状況と最終日の試験(持ち込み可)を合わせて総合的に評価いたします。

科目 社会政策

2単位

担当 講師 齋藤香里

現代の社会政策は労働問題と社会保障によって構成されるが、本講義では日本の社会保障のあり方について「格差」に着目し、検討する。経済学の視点から、特に、医療保障、子どもの貧困、高齢者の介護問題を取り上げる。

- 〔第1回〕 イントロダクション—社会政策とは何か
- 〔第2回〕 社会政策の理論と歴史的展開
- 〔第3回〕 日本の社会保障制度の変遷と概要
- 〔第4回〕 医療① 日本の医療保障の概要と課題
- 〔第5回〕 医療② 医療における格差
- 〔第6回〕 子どもの貧困① 相対的貧困と絶対的貧困
- 〔第7回〕 子どもの貧困② 幼児教育の経済学
- 〔第8回〕 子どもの貧困③ 子どもの貧困への対策
- 〔第9回〕 高齢者の介護問題① 日本の介護保険制度
- 〔第10回〕 高齢者の介護問題② 日本の介護保険制度の課題
- 〔第11回〕 高齢者の介護問題③ ドイツの介護施策
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・駒村康平(編著)『新・福祉の総合政策』(創成社、2018年)(市販書採用科目「社会政策(E・J)」指定テキスト、経済学部Ⅲ年度②配本、法学部Ⅳ年度②配本)
- ・阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』(岩波書店、2014年)
- ・ジェームス・J・ヘックマン『幼児教育の経済学』(東洋経済新報社、2015年)

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 社会福祉論

2単位

担当 講師 永井攻治

社会保障・福祉制度は成立と改革を相互に繰り返して現在の姿となった。その流れは、経済成長及び財政と深く関わっている。例えば、高度経済成長・財政拡充期に骨子が成立し、その後の安定成長・緊縮財政期に制度改革が多くなされている。この法則から考察すると、現在の低成長期は後者（改革期）と言える。それでは、これからの社会保障制度は、改革の名の下にどのような方向転換が迫られているのか。それは、これまでとは異なる状況、特に超高齢化社会においても破綻することのない福祉施策を講じる制度改革である。

従来型の制度改革は、負担と給付の議論が先行していた。しかし、財政面のみから考えると、人口の高齢化、家族機能の変化、財政赤字等への対応策が問題である。現在の財政状況では、これからの福祉ニーズに十分な対応を施す事は困難である。また、戦後60年以上が経過し、日本の社会保障や福祉を取り巻く理念も「弱者救済から全国民への安心の保障」へと変化している。

そこで本講義では、社会保障・福祉制度の歴史的展開と少子高齢化社会の社会保障・福祉制度の役割・各社会保険（医療・年金・福祉）と労働保険（労災・雇用保険）の制度を中心に学ぶ。そして、持続可能性のある社会保障・福祉制度の必要性和、超高齢化社会に対応した福祉施策のあり方とは何かを共に考える。

- 〔第1回〕 イントロダクション及び成熟化社会と社会保障
〔第2回〕 少子・高齢化社会の現状と動向
〔第3回〕 高齢化と日本経済
〔第4回〕 社会保障制度の機能
〔第5回〕 日本の年金制度の歴史的変遷①
〔第6回〕 日本の年金制度の歴史的変遷②
〔第7回〕 年金制度の概要①
〔第8回〕 年金制度の概要②
〔第9回〕 健康保険制度の概要
〔第10回〕 労働者災害補償保険制度の概要
〔第11回〕 働くルールと社会保障
〔第12回〕 総括「現在の社会保障制度の問題点について」

◆テキスト

プリントを適宜配布する予定である。

◆参考文献

- ・駒村康平編著『新・福祉の総合政策』（創成社、2018年）（市販書採用科目「社会政策（E・J）」指定テキスト、経済学部Ⅲ年度②配本、法学部Ⅳ年度②配本）
- ・その他、授業中に適宜指示する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

日本の社会保障・福祉制度について関心を持つ学生を歓迎する。担当教員の指導に非協力的な学生の受講は歓迎しない。なお、講義終了後に毎回テーマを与え、自分なりの意見を提出してもらう予定である。

◆成績評価方法

「テスト」、「出席と課題提出」、「授業態度（増減点）」で評価する予定である（受講者数により臨機応変に判断するので、詳細は授業開始時に説明する）。

科目 経済政策

2単位

担当 講師 野口尚洋

新聞やテレビのニュースで、政府による経済政策は様々な形で報道されている。年金などの社会保障政策や雇用の創出などのマクロ経済政策などは多くの人にとっての関心事項であろう。特に、将来に対する不確実さや国際化の波による伝統的な日本の経済構造の崩壊に直面している今、政府による経済政策の重要性は日増しに高まっている。

本講義では、経済学の中で経済政策を理解することにより経済理論に裏打ちされた目でこれら政策について自分なりに理解出来るようになることを目標とする。

具体的な講義内容は以下の通り。

- 〔第1回〕 ミクロ経済学の復習
〔第2回〕 市場への政府介入
〔第3回〕 公益事業と競争政策
〔第4回〕 外部性と公共財
〔第5回〕 ミクロ経済政策の復習
〔第6回〕 マクロ経済学の復習
〔第7回〕 安定化政策の基礎と財政金融政策
〔第8回〕 インフレ・デフレと失業
〔第9回〕 安定化政策の現代的課題
〔第10回〕 税制の効率性と公平性
〔第11回〕 現実のトピックス
〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・岩田規久男・飯田泰之『ゼミナール経済政策入門』（日本経済新聞出版社、2006年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

ミクロ経済学、マクロ経済学の復習も講義の中で行う予定であるが、時間の関係上、それほど詳しく説明できないので、経済原論（ミクロ経済学やマクロ経済学など）の講義を履修しているか、または講義までにある程度の知識を身につけていることを前提とする。

◆成績評価方法

最後の試験によって評価するが、数回は当日扱った内容に対するレポートを講義内に作成し提出していただき、それも評価の対象とする。

科目 金融論

2単位

担当 講師 溝口哲郎

金融取引は、我々の日々の経済活動において必要不可欠な存在である。日本がグローバル化の進行する世界の中で豊かさを享受しているのは、金融の力が大きい。本講義では、現代における金融の仕組みを理解し、金融機関の存在意義、資産の価格決定メカニズム、金融政策などのトピックを取り扱う予定である。

- 〔第1回〕 金融の役割と資金循環
〔第2回〕 企業の資金調達と投資

- 〔第3回〕 金融商品のリスク制御と価格計算
- 〔第4回〕 金融機関の仲介機能と証券市場
- 〔第5回〕 金融行政と金融政策
- 〔第6回〕 財政と財政投融资
- 〔第7回〕 貿易・資本移動と外国為替
- 〔第8回〕 金融のミクロ理論（家計の金融行動）
- 〔第9回〕 金融のミクロ理論（企業・銀行の金融行動）
- 〔第10回〕 金融のマクロ理論（ワルラス法則とIS-LM分析）
- 〔第11回〕 金融のマクロ理論（総需要－総供給モデル、オープン・マクロモデル）
- 〔第12回〕 試験

◆ テキスト

- ・吉野直行・山上秀文『金融論』（通信テキスト、2017年）（経済学部Ⅱ年度配本、法学部Ⅳ年度②配本）

◆ 参考文献

- ・川西諭・山崎福寿『金融のエッセンス』（有斐閣、2013年）

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

金融論は経済学の応用分野のため、経済学を履修済であることが望ましい。特にマクロ経済学およびミクロ経済学の知識があると、理解が容易になるだろう。講義では金融の現状や実際を含めて説明し、その理解に基づいて金融の理論を学習する。

◆ 成績評価方法

最終日の試験による。ただし一定のスクーリング出席を前提とする。

科目 国際経済学

2 単位

担当 講師 久野 新

国と国とが貿易を行うのは何故なのか。ある国の主要貿易品目はどのように決定されるのか。貿易自由化や自由貿易参加の是非をめぐり国内でも意見が衝突するのは何故なのか？ 外国人労働者の受け入れが一国の経済に与える影響はどのようなものなのか？

本講義では、広義の国際経済学のなかでも国際貿易論と呼ばれる領域の理論の基礎を学び、こうした諸問題について受講者が自ら考察できるようになるための訓練を行う。

- ・学習の到達目標

本講義で登場する基礎的な用語や理論について、第三者に対して説明できるようになること。

講義内容は以下を予定している。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 部分均衡分析の方法論（復習）
- 〔第3回〕 貿易政策の基礎
- 〔第4回〕 貿易政策の応用
- 〔第5回〕 比較優位と分業の利益（1）
- 〔第6回〕 比較優位と分業の利益（2）
- 〔第7回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（1）
- 〔第8回〕 国際貿易のルールと貿易交渉（2）
- 〔第9回〕 地域貿易協定（1）
- 〔第10回〕 地域貿易協定（2）
- 〔第11回〕 国際要素移動（資本や労働の国際移動）
- 〔第12回〕 総括

◆ テキスト

- ・石川城太・椋寛・菊地徹『国際経済学をつかむ〔第2版〕』（有斐閣、2013年）

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

経済原論を履修済みであることが望ましい。
授業内のディスカッションに積極的に参加すること。

◆ 成績評価方法

最終日の試験（持ち込み不可）のみで評価する。

科目 世界経済論

2 単位

担当 講師 宮崎礼二

〔講義概要〕

21世紀の世界は、2001年の同時テロ、2008年のサブプライムローン問題に端を発する国際金融危機とその後の世界同時不況、そしてヨーロッパ財政危機を契機とするユーロ解体の懸念など、第二次世界大戦後に経験することのなかった「危機の連鎖的状況」で始まった。さらに、BRICSに象徴される新興国の台頭は、19世紀・20世紀の帝国主義列強諸国・先進工業国中心の世界経済地図を大きく書き換えつつある。中国の台頭は覇権国アメリカとの対抗関係を強めてもいる。また、イギリスのEU離脱やアメリカでのトランプ政権誕生に象徴されるように、先進国の多くで「グローバル化恐怖症」(globophobia) がそれまでのグローバリズムの興隆を凌駕しようとしている。不確定かつ不確実性の高まる時代が予兆される。

本講義は今日の世界経済を理解するために、第二次世界大戦後から今日に至る世界経済の展開と変遷を、国際的な経済関係からグローバルな経済への移行とその構造変化に焦点を当てながら、政治経済学的に考察をおこなう。さらに、この変遷過程に、現実経済と経済思想との関係性を見出し、政策面からも世界経済を捉える。講義では、個々の具体的な政治経済事象や政策展開を時系列的に取り上げ、それらの政治経済的な意味とそれらが現実の世界経済にどのような影響をもたらし、またどのような意義をもったのかについて論じる。したがって、本講義は理論を中心とする「学」ではなく、事実を踏まえて解釈する「論」に重きをおく。つまり、定量的ではなく定性的分析が主たるアプローチである。しかし、今日の世界における各国経済のあれやこれやの解説が本講義の目的でないことに留意してほしい。

〔講義計画〕

- 〔第1回〕 講義ガイダンス & イントロダクション
- 〔第2回〕 戦後世界経済秩序の形成
- 〔第3回〕 戦後構想と現実との乖離
- 〔第4回〕 Pax Americanaの基盤確立
- 〔第5回〕 国民国家を超越する多国籍資本の台頭
- 〔第6回〕 国民国家の「呪縛」からの解放とグローバリゼーションの胎動
- 〔第7回〕 戦後世界経済秩序への挑戦－オイル・ショックとその帰結－
- 〔第8回〕 レーガノミクスの世界経済への影響
- 〔第9回〕 ポスト冷戦とグローバリズム盛隆
- 〔第10回〕 戦後世界経済の変容とバブル連鎖
- 〔第11回〕 世界経済秩序を巡る米中対抗の構図

- 〔第12回〕 グローバリゼーション、グローバリズム、民主主義
- 〔その他〕 内容の節目ごとに、リアルタイムで生じている政治経済事象を講義テーマから読み解くための《歴史と現代との対話》を挿入することもある。

◆テキスト

- ・新岡智・板木雅彦・増田正人編『国際経済政策論』（有斐閣、2005年）

◆参考文献

参考文献については、講義内で適宜紹介する。

◆受講上の要望または受講上の前提条件

1. 講義は、前回までの内容の積み重ねで全体像を構成するため、欠席することのないようにしてほしい。
2. 日々の政治経済ニュースに関心を持っていることが望ましい。

◆成績評価方法

期末レポートによる。

科目 経済地理

2単位

担当 講師 花島誠人

この講義では、経済地理学の概念枠組を理解し、基礎的な理論と分析手法を知ることによって、現実の社会・経済的課題に取り組むための経済地理的視点を学ぶことを目的とする。

地理学は、地表に生起する事象（地理的事象）に関する学問である。経済地理学は、その中でも特に人間の経済行動に焦点を当てた分野であり、経済学はもちろんのこと、社会学、経営学、歴史学、行動科学、情報学など多様な学問とクロスオーバーする広い領域を対象としている。特に近年は、地理情報システム（GIS）をはじめとする高度な情報ツールを誰もが容易に利用できるようになり、社会・経済的課題に対して空間的視点からアプローチが試みられるようになってきている。地理学は、それらの取組における理論的バックグラウンドとして、重要な役割果たしているといえよう。この講義では、以下に示すように、理論だけでなく地域統計データや地理空間情報の基礎知識と使い方、先端的な地理情報科学の研究、さらに防災分野における地理学の役割などについても紹介する予定である。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 経済地理学の理論と方法
- 〔第3回〕 日本の地理空間情報
- 〔第4回〕 日本の地域統計情報
- 〔第5回〕 地理情報分析の基礎①
- 〔第6回〕 地理情報分析の基礎②
- 〔第7回〕 地理情報システム（GIS）
- 〔第8回〕 地理情報科学と地理学
- 〔第9回〕 自然災害と地理情報科学①
- 〔第10回〕 自然災害と地理情報科学②
- 〔第11回〕 歴史地理学への招待
- 〔第12回〕 試験・総括

◆テキスト

テキストは指定しない。適宜プリントを配布する。

◆参考文献

- ・武山政直・松原彰子（編著）、杉浦章介・河端瑞貴・花島誠人（著）『人文地理学』（通信テキスト、2019年、文学部・経済学部・法学部Ⅱ年度配本）
- ・小林茂・宮澤仁『グローバル化時代の人文地理学』（放送大学教材、NHK出版、2012年）
- ・杉浦芳夫（編）『地理空間分析』（朝倉書店、2003年）
- ・菅野峰明・高坂宏行・安仁屋政武『地理的情報の分析手法』（古今書院、1987年）
- ・ピーター・ディッケン／ピーター・E・ロイド『立地と空間（上・下）』（古今書院、1997年）（2001年改訂版）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

講義の中でインターネット上の情報リソースに言及することが多いので、必須ではないが塾内ネットワークアカウントを取得しているか、インターネットにアクセスする手段を有していることが望ましい。

一般的なインターネットやWEBサイト関連の用語やコンピュータに関する基本的な知識があることが望ましい。

◆成績評価方法

出席状況、授業への参加状況、最終日の試験により評価する。

科目 社会問題

2単位

担当 講師 定森 亮

日本は、明治期に、国家の文明化、つまりは近代化を目的としてヨーロッパの学問を取り入れた。本講義は、現代においてヨーロッパ文明の内実を問うことが、日本の社会の基礎を問うことといかに密接不可分に結び付いているかを受講者がより深く理解できるようになることを目標とする。

なお、本講義は、現代社会において向き合うべき具体的な諸問題を思想的観点から扱う。そのために、近代ヨーロッパ文明の基礎が形成された15世紀のイタリア・ルネサンスの時代から18世紀のイギリス、フランスを中心とした啓蒙の時代を経て、20世紀初頭までの思想家を取り上げて分析し、この長い時代を通じて、人間、社会、国家に関する認識が、いかにして精緻化されていき、それが経済学を代表とした近代社会科学の基礎を形成するに至ったかを明らかにする。

- 〔第1回〕 イントロダクション
- 〔第2回〕 ハンナ・アーレントの全体主義批判
：第二次世界大戦の記憶を巡って
- 〔第3回〕 アーレント『人間の条件』における近代社会批判
：大学制度と古代ギリシア以来の学問的知の伝統
- 〔第4回〕 ニッコロ・マキアヴェッリ『デイスコルシ』における古代社会の発見
：市民権と軍事参加、日本国憲法の特異性
- 〔第5回〕 マキアヴェッリ『君主論』とマキアヴェリズムの問題
：現代の国際政治と経済的利権の問題
- 〔第6回〕 ジェイムズ・ハリントン『オシアナ共和国』における政治の科学

- ：「理想」と対話、民主政治を支える文化とはなにか？
- 〔第7回〕 デヴィッド・ヒュームにおける文明社会と名誉革命体制の肯定
：女性の社会的位置の歴史的变化
- 〔第8回〕 モンテスキューとヒュームにおける世界経済の分析と「人間性」の認識の相違
：ネルソン・マンデラの黒人解放運動における「理想」と「反省」
- 〔第9回〕 アダム・スミス『道徳感情論』から『国富論』への展開
：現代アメリカ社会における経済格差の拡大と民主政治の危機
- 〔第10回〕 スミス『国富論』における経済的自由の体系
：18世紀のスミスの自由主義と今日の新自由主義の違い
- 〔第11回〕 マルクスの資本主義批判、トクヴィルのアメリカ「民主政治」の評価
：グローバリゼーションの時代における民主政治の可能性
- 〔第12回〕 試験・総論

◆テキスト

- ・坂本達哉『社会思想の歴史』（名古屋大学出版会、2014年）（市販書採用科目「社会思想史」指定テキスト、経済学部IV年度①配本）

◆参考文献

- ・ハンナ・アレント『人間の条件』（ちくま学芸文庫、1994年）

◆成績評価方法

学期末の試験で評価する。持ち込み不可。出席状況は評価の対象としないが、学期を通じて2回程度実施する予定の質問アンケートは僅かに（100点満点中の3点未満）考慮することがある。

科目 経営学

2単位

担当 商学部教授 菊澤研宗

この講義では、経営学と経済学との違いから説明し、経営学の特徴を述べるとともに、現代経営学の中心的分野である経営戦略論を中心に講義する。特に、経営戦略論の流れとともに、最新のダイナミック・ケイパビリティ論、そして現在、必要とされている多元的な経営戦略論について説明する予定である。

- 〔第1回〕 所有と支配の分離論：原理
- 〔第2回〕 所有と支配の分離論：効果
- 〔第3回〕 戦略と多元的世界観
- 〔第4回〕 物理的世界の戦略論：ポーターの戦略論前史
- 〔第5回〕 物理的世界の戦略論：ポーターの競争戦略論
- 〔第6回〕 資源ベース論
- 〔第7回〕 ダイナミック・ケイパビリティ論
- 〔第8回〕 心理的世界の戦略論1：プロスペクト理論
- 〔第9回〕 心理的世界の戦略論2：心理会計論
- 〔第10回〕 知性的世界の戦略：取引コスト理論
- 〔第11回〕 多元的戦略論

〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・菊澤研宗著『戦略学—立体的戦略の原理』（ダイヤモンド社、2008年）

◆参考文献

- ・菊澤研宗編著『ダイナミック・ケイパビリティの戦略経営論』（中央経済社、2018年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 産業関係論

2単位

担当 商学部教授 八代充史

この講義では、産業関係論の様々な側面の中で特に人的資源管理について講義を行う。人的資源管理とは、市場経済で最大利潤獲得を目的にした企業が、どうしても従業員を合理的に活用し、また彼らのやる気を高めることができるかを研究する学問である。ここでは、特に日本の雇用制度に関して下記の側面から講ずることにしたい。

- 〔第1回〕 人的資源管理と雇用制度
- 〔第2回〕 日本の雇用制度（1）長期雇用
- 〔第3回〕 日本の雇用制度（2）年功賃金
- 〔第4回〕 雇用制度の各論（1）初期キャリア
- 〔第5回〕 雇用制度の各論（2）配置・異動
- 〔第6回〕 雇用制度の各論（3）昇進・昇格
- 〔第7回〕 雇用制度の各論（4）賃金制度
- 〔第8回〕 雇用制度の各論（5）人事制度
- 〔第9回〕 雇用制度の各論（6）退職
- 〔第10回〕 女性化～ポジティブ・アクション
- 〔第11回〕 高齢化～エイジ・フリー
- 〔第12回〕 国際化～グローバル競争

◆テキスト

- ・八代充史『人的資源管理論（第2版）』（中央経済社、2014年）

◆参考文献

- ・八代充史・南雲智映『ライブ講義 はじめての人事管理（第2版）』（泉文堂、2015年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

なるべく講義開始時間に着席しているようにして下さい。

◆成績評価方法

スクーリング期間の最終日に実施する試験によって、評価を行います。

総合講座**「総情報化社会と法」**

2単位

コーディネーター 法学部教授 佐藤拓磨

法学部教授 大屋雄裕 / 講師 尾崎愛美 / 講師 笠原毅彦

担当 講師 張 睿映 / 法学部教授 丸山絵美子 / 法学部教授 柳 明昌

法務研究科教授 山本龍彦 / 法学部教授 山本爲三郎

講義要綱は79頁を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、経済学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 哲学（専門） 2単位

担当 講師 岡嶋隆佑／講師 戸澤幸作

講義要綱は文学部専門教育科目「哲学（専門）」（52頁）を参照してください。

科目 社会心理学（専門） 2単位

担当 講師 村山 陽

講義要綱は文学部専門教育科目「社会心理学（専門）」（54頁）を参照してください。

科目 図書館・情報学 2単位

担当 講師 長谷川豊祐

講義要綱は文学部専門教育科目「図書館・情報学」（57頁）を参照してください。

科目 日本史特殊 2単位

担当 文学部教授 上野大輔

講義要綱は文学部専門教育科目「日本史特殊」（57頁）を参照してください。

科目 西洋史特殊 2単位

担当 講師 綾辺昌朋

講義要綱は文学部専門教育科目「西洋史特殊」（58頁）を参照してください。

科目 憲法 2単位

担当 講師 岡田順太

講義要綱は法学部専門教育科目「憲法」（69頁）を参照してください。

科目 刑法 2単位

担当 講師 大山 徹

講義要綱は法学部専門教育科目「刑法」（69頁）を参照してください。

科目 行政法 2単位

担当 講師 仲田孝仁

講義要綱は法学部専門教育科目「行政法」（71頁）を参照してください。

科目 法制史 2単位

担当 講師 三田奈穂

講義要綱は法学部専門教育科目「法制史」（72頁）を参照してください。

科目 社会学特殊 2単位

担当 講師 鈴木慶孝

講義要綱は法学部専門教育科目「社会学特殊」（72頁）を参照してください。

科目 マス・コミュニケーション論 2単位

担当 講師 山口 仁

講義要綱は法学部専門教育科目「マス・コミュニケーション論」（73頁）を参照してください。

科目 政治思想論 2単位

担当 法学部教授 堤林 剣／講師 梅澤佑介

講義要綱は法学部専門教育科目「政治思想論」（73頁）を参照してください。

科目 国際政治論 2単位

担当 講師 李 錫敏

講義要綱は法学部専門教育科目「国際政治論」（74頁）を参照してください。

科目 政治理論 2単位

担当 講師 慶 済姫

講義要綱は法学部専門教育科目「政治理論」（74頁）を参照してください。

科目	政治過程論	2単位
----	-------	-----

担当	講師 池田豊彦
----	---------

講義要綱は法学部専門教育科目「政治過程論」(74頁)を参照してください。

科目	日本政治史	2単位
----	-------	-----

担当	講師 小田義幸
----	---------

講義要綱は法学部専門教育科目「日本政治史」(75頁)を参照してください。

科目	日本政治論	2単位
----	-------	-----

担当	法学部教授 小川原正道／講師 門松秀樹
----	---------------------

講義要綱は法学部専門教育科目「日本政治論」(76頁)を参照してください。

科目	地域研究（ラテンアメリカを事例に、地域研究の方法）	2単位
----	---------------------------	-----

担当	法学部教授 出岡直也／講師 本谷裕子／講師 山脇千賀子
----	-----------------------------

講義要綱は法学部専門教育科目「地域研究（ラテンアメリカを事例に、地域研究の方法）」(76頁)を参照してください。

科目 憲法

2単位

担当 講師 岡田順太

日本国憲法の諸論点を明確にし、典型的な解釈論から立法論（改憲論）まで、最先端の憲法論を展開したい。具体的には、次の論点を予定している。

- 〔第1回〕 イントロダクション・憲法の基本原理
- 〔第2回〕 人権総論（享有主体性・私人間効力）
- 〔第3回〕 消極的権利（1）
- 〔第4回〕 消極的権利（2）
- 〔第5回〕 積極的権利（受益権・社会権）
- 〔第6回〕 能動的権利／複合的権利
- 〔第7回〕 天皇
- 〔第8回〕 国会／内閣
- 〔第9回〕 裁判所
- 〔第10回〕 財政／地方自治
- 〔第11回〕 安全保障
- 〔第12回〕 総括

◆ テキスト

・駒村圭吾『プレステップ憲法〔第2版〕』（弘文堂、2018年）（市販書採用科目「憲法（E・J）」指定テキスト、経済学部Ⅲ年度①配本、法学部Ⅱ年度配本）

◆ 参考文献

必要に応じて授業内で指示する。

◆ 受講上の要望または受講上の前提条件

特別な予習は必要ないが、毎回出席して、克明にノートを取り、思考を廻らせてほしい。また、『六法』（判例要旨付のものが望ましい）を毎回携行してほしい。具体例を挙げ平明に講義するつもりである。

◆ 成績評価方法

最終日の試験による。8割以上の出席を試験受験資格とし、採点は寛大に行う。

科目 刑法

2単位

担当 講師 大山 徹

刑法各論の講義を行う。刑法典第2編「罪」の中の一連の犯罪につき順次レクチャーしていくが、各々の犯罪がどのような法益を保護するために存在しているのかということをまずは確認する。明治40年に制定された刑法典は、国家的法益に対する罪・社会的法益に対する罪・個人的法益に対する罪の順番でそれぞれの犯罪を配列しているが、本講義においては、個人的法益に対する罪・社会的法益に対する罪・国家的法益に対する罪の順番で講義を行う。それぞれの犯罪の成立要件は何か、犯罪類型相互の関係はどうなっているか、正確に理解できるように、丁寧な講義を毎回するよう心掛ける。予備知識は一切必要ないので、安心して受講されたい。

- 〔第1回〕 殺人罪、人の始期と人の終期 出生とは何かについては、議論があり、一部露出説・全部露出説・分娩開始説等がそれぞれ主張

されている。各説を丁寧にレクチャーする。胎児の保護と母体保護法との関連、臓器移植と人の終期についても考察する。

- 〔第2回〕 暴行罪と傷害罪の関係につき第一次的にレクチャーする。また、刑法202条は前段で同意殺人罪を後段で自殺関与罪を規程しているが、これに関しても、懇切丁寧にレクチャーする。いわゆる偽装心中に刑法199条を適用すべきか、刑法202条を適用すべきかが問題になっているが、この点についても言及していく。

- 〔第3回〕 単純遺棄罪における遺棄概念と保護責任者遺棄罪における遺棄概念とは異なり、後者については移置のみならず置き去りも含むと解されている。この論点を中心に論ずる。遺棄罪が抽象的危険犯か具体的危険犯かについては争いがあるが、この論点に関しても話題提供を行う。危険犯の話をする際には、放火罪の話を少し行う。

- 〔第4回〕 胎児性水疱病事件を素材に、胎児性致死傷が業務上過失致死罪で捕捉されるか否かにつき論ずる。故意による胎児性致死傷に限って処罰するという異説も主張されており、これについても紹介をする。また、堕胎概念につき、堕胎を胎児殺と解する有力説も存在するが、この見解に関しても紹介をする。

- 〔第5回〕 名誉毀損罪と侮辱罪の異同につき解説を行う。公然性の要件の意義、伝播性の理論、事実の適示につき考察する。また、仮定的名誉の話や真実性の証明（名誉毀損と表現の自由の関連）についても、具体的な事件を素材にして分析を試みることにしたい。

- 〔第6回〕 財産罪の体系につき講義を行う。財産罪の分類にあたっては、領得罪と毀棄罪とに分ける見解、財物罪と利得罪とに分ける見解、個別財産に対する罪と全体財産に対する罪とに分ける見解等がある。これらの見解につき講ずる。業務妨害罪と信用毀損罪が財産罪の抽象的危険犯だとする見解もあるが、この論点に関しても言及をする。

- 〔第7回〕 財産罪の保護法益は本権か事実上の占有か。判例は占有説を採るが、学説上は本権説も有力である。窃盗犯人から真の所有者が盗まれた財物を奪還する事例等で両説の差が生ずる。この論点につき噛み砕いて解説を試みる。間接領得罪である盗品関与罪についてもコメントをする。

- 〔第8回〕 不法領得の意思につき学説は必要説を採るが、学説上は不要説が有力である。もっとも、必要説を採っても、所有権者として振舞う意思と経済的用法に従い利用・処分する意思に二分する見解も存在する。使用窃盗や毀棄罪と領得罪について講ずる。

- 〔第9回〕 詐欺罪の成立要件と財産的損害の意義につ

き解説を加える。国家的法益の侵害に詐欺罪は適用されるか等の典型的な論点についても言及する。自己名義のクレジットカードの不正使用の問題に関してもコメントするが、詐欺罪の書かれざる構成要件要素である財産的損害の意義についても議論を紹介する。また、文書偽造罪と詐欺罪の関係についても話をする。

- 〔第10回〕 詐欺罪における交付行為（処分行為）につき考察する。キセル乗車における下車駅での事態や無意識の処分行為につき検討する。交付意思が必要かどうかに関しては学説上盛んな議論があるが、担当者は交付意思必要説の立場に立脚して、議論を紹介していく。
- 〔第11回〕 強盗関係罪につき検討を試みる。236条の強盗罪につき分析を試みるほか、事後強盗罪の構造、240条が強盗殺人罪、強盗致死罪、強盗傷人罪、強盗致傷罪をそれぞれ規定していることにも言及する。なお、240条とハイジャック防止法上の航空機強取等致死罪は本罪と密接な関連性を有するが、この論点についても言及する。
- 〔第12回〕 横領罪における不法領得の意思の発現、占有の意義、横領後の横領等の論点につき解説する。財物罪と利益罪のどちらにも分類できない背任罪についても言及する。横領と背任の区別についてもコメントする予定である。贈収賄罪に関しても少し触れる。
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

- ・井田良・佐藤拓磨ほか著『よくわかる刑法〔第3版〕』ミネルヴァ書房、2018年、2500円、ISBN978-4-623-06721-3
- ・高橋則夫『刑法各論〔第3版〕』成文堂、2018年、4860円、ISBN978-4792352578
- ・西田典之（橋爪隆補訂）『刑法各論〔第7版〕』弘文堂、2018年、4320円、ISBN978-4335304798

◆参考文献

- ・山口厚・佐伯仁志『刑法判例百選2 各論〔第7版〕』有斐閣、2014年、2592円、ISBN9784641115214
- ・西田典之ほか『判例刑法各論〔第7版〕』有斐閣、2018年、3780円、ISBN9784641139305

◆受講上の要望または受講上の前提条件

刑法総論ないし法学入門の講義を既に受講済みである方が望ましい。

◆成績評価方法

小テストと最終日の試験で専ら評価する。

科目 刑事政策学

2単位

担当 講師 吳 柏蒼

刑事政策は、犯罪者に対してどのように刑罰や処分を以て制裁を科すかということは勿論、刑罰や処分の執行のあり方や、犯罪予防の側面についても重視し、加えて犯罪被害者に関する視点も欠かせない。本講義は、刑事政策の目的や原理、刑事制裁論と犯罪者処遇

論における重要なトピックを取り上げ、犯罪予防や犯罪被害者支援の諸論点を加味し、さらに、各論として近年社会的関心の大きい論点を取り上げたいと思う。講義は、以下のような予定で進みたいと思うが、実際の状況に応じて微調整することもありうる。

- 〔第1回〕 刑事政策の目的と原理
 〔第2回〕 死刑・自由刑
 〔第3回〕 矯正処遇・仮釈放・保護観察
 〔第4回〕 全部執行猶予・刑の一部執行猶予
 〔第5回〕 財産刑
 〔第6回〕 ダイバージョン
 〔第7回〕 犯罪被害者支援と法的地位Ⅰ
 〔第8回〕 犯罪被害者支援と法的地位Ⅱ
 〔第9回〕 性犯罪
 〔第10回〕 薬物犯罪
 〔第11回〕 外国人犯罪
 〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

- ・守山正・安部哲夫編著『ビギナーズ刑事政策〔第3版〕』（成文堂、2017年、市販書採用科目「刑事政策学」指定テキスト、法学部Ⅲ年度②配本）

◆参考文献

- ・井田良・太田達也編著『いま死刑制度を考える』（慶應義塾大学出版会、2014年）
- ・朴元奎・太田達也編『リーディングス刑事政策』（法律文化社、2016年）
- ・太田達也著『仮釈放の理論—矯正・保護の連携と再犯防止』（慶應義塾大学出版会、2017年）
- ・太田達也著『刑の一部執行猶予—犯罪者の改善更生と再犯防止』（改訂増補版）（慶應義塾大学出版会、2018年）
- ・太田達也著『刑事政策Ⅰ 刑事制裁論』慶應義塾大学出版会（2019年刊行予定）
- ・法務総合研究所編『平成30年版犯罪白書』（法務省、2018年）
- ・国家公安委員会・警察庁編『犯罪被害者白書』（2019年6月版）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

受講上の前提要件は特にないが、刑事政策の学習にあたり、法解釈論に止まらず、現状や制度の運用状況を踏まえたうえで、政策や制度のあり方を検討する必要があるため、連動した政策や制度を立体的・総合的に考えることも重要である。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 民事訴訟法

2単位

担当 法学部専任講師 金 美紗

私人間に実体法上の権利義務関係の存否に関する争いが存在する場合、私人は、裁判所の判断を求めて、民事訴訟を利用することができる。民事訴訟は、訴えの提起に始まり、争点整理、口頭弁論、証拠調べなどを経て判決に至る一連の手続であり、手続全体を通じて、「適正公平かつ迅速安価」な方法による紛争解決が志向される。この授業では、第一審における民事訴訟手続を対象として、民事訴訟法の基本構造および基

礎理論を学ぶ。

- 〔第1回〕 民事紛争解決制度の全体像、民事訴訟手続の基本的な流れ
- 〔第2回〕 民事訴訟の主体—当事者の確定、当事者能力、訴訟能力、訴訟上の代理
- 〔第3回〕 民事訴訟の客体—訴えの3類型と訴訟物
- 〔第4回〕 訴訟要件（審判権の限界、訴えの利益）
- 〔第5回〕 処分権主義
- 〔第6回〕 本案審理①—審理方式および審理の基本原則
- 〔第7回〕 本案審理②—弁論主義（主張原則）
- 〔第8回〕 本案審理③—自由心証主義、証明責任
- 〔第9回〕 本案審理④—各種の証拠調べ手続
- 〔第10回〕 判決の効力①
- 〔第11回〕 判決の効力②
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・三木浩一ほか『民事訴訟法〔第3版〕(LEGAL QUEST)』(有斐閣、2018年)
- ＊第3版よりも古い版を購入済みの方は、第3版を購入する必要はありません。

◆参考文献

授業中に紹介する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

受講者には、民法、とくに財産法についてひと通りの基礎知識があることが望まれる。また、講義には六法を持参すること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 刑事訴訟法

2単位

担当 法学部教授 亀井源太郎

刑事手続について講義する。

- 〔第1回〕 イントロダクション、序説
- 〔第2回〕 捜査総説
- 〔第3回〕 捜査の端緒
- 〔第4回〕 被疑者の身柄保全
- 〔第5回〕 証拠の収集（1；捜索・押収・検証・鑑定）
- 〔第6回〕 証拠の収集（1）（承前）
- 〔第7回〕 証拠の収集（2；被疑者等の取調べ）
- 〔第8回〕 証拠の収集（2）（承前）
- 〔第9回〕 公訴
- 〔第10回〕 公判手続、証拠法総説
- 〔第11回〕 証拠法総説（承前）、証拠法各説
- 〔第12回〕 総括

◆テキスト

- ・亀井源太郎ほか『プロセス講義刑事訴訟法』（信山社、2016年）

◆参考文献

- ・亀井源太郎『ロースクール演習刑事訴訟法〔第2版〕』（法学書院、2014年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

以下の科目について既に単位取得していることが望ましい。

- ・憲法（人権）
- ・刑法

また、講義当日は六法（憲法、刑法、刑事訴訟法、刑事訴訟規則、警察法、警察官職務執行法が掲載されているもの）を用意すること。

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 行政法

2単位

担当 講師 仲田孝仁

講義では、各種行政活動に共通する通則的な理論である「行政法総論」と、違法な行政活動に対する事後的な権利・利益の救済制度である「行政救済法」とを学ぶ。公務員として任用された場合は、実際に法律や条例を運用する。民間企業であっても行政の規制が及ばない業種・業界はないと言っても過言ではない（許認可事項は1万件（14818件、平成26年4月1日時点）を越える）。さらに、一市民としても、運転免許や各種営業許可の取得、申請・届出、家庭ごみの収集、生活保護費の受給、年金、税金の課税処分など行政とのかかわりは切っても切れない（東京メトロ（地の底）から「宇宙航空研究開発機構（JAXA、独立行政法人）」（宇宙）まで）。よって、現職の公務員であれ、会社員、一般市民いずれの立場であれ、「行政法」を学習する意味がある。本講義は、「行政法」の入門的な知識を受講者に習得・理解させることを目的とする。さらに、実社会に生起する諸問題を、「行政法」的思考法で模索、解決することをも意図する。向学心旺盛な学生諸君の受講を期待する。

- 〔第1回〕 イントロ—「行政法」を学ぶ前に。「行政法」とはいかなる法か。「行政法」を学習する意義について。「行政法」の歴史、公法・私法二元論について（行政法と民事法、農地改革、租税法律関係と民法177条。公営住宅の利用関係）。
- 〔第2回〕 行政法の諸原則—法律による行政の原理、法律の留保、侵害留保説、その他の諸原則について。
- 〔第3回〕 行政組織法概説—行政主体、行政機関概念について、国家行政組織法について。国の行政機関。権限の委任と代理について。
- 〔第4回〕 行政行為概説—行政行為、行政裁量（司法統制）、行政行為の諸分類について。附款について。日光太郎杉事件、マクリーン事件、伊方原発訴訟（原子炉等規制法、原子力規制委員会）など。
- 〔第5回〕 行政行為の効力について、行政行為の取消・無効（重大かつ明白な瑕疵）、行政行為の撤回—ガントレット事件、菊田医師事件（実子あっせん事件。優生保護法について。）について。
- 〔第6回〕 行政手続法概説—申請に対する処分、不利益処分（聴聞手続。主宰者）、行政指導手続など。個人タクシー事件、品川マンション事件、理由付記（旅券発給拒否事件）など。
- 〔第7回〕 行政救済法概説—損失補償について（名取川事件、奈良県ため池条例事件、土地収用

- 法と損失補償など)。正当な補償とは。完全補償説と相当補償説について。
- 〔第8回〕 国家賠償法概説―1条責任と2条責任について（学校事故、パトカーによる追跡、高知落石事故、水害訴訟〈大東、多摩川水害訴訟〉など）。
- 〔第9回〕 行政不服申立て概説―行政不服審査法について。平成26年改正法について（審査請求、審理員、行政不服審査会）。
- 〔第10回〕 行政事件訴訟概説（1）―行政訴訟の訴訟類型について。取消訴訟、処分性、原告適格（訴えの利益）について。
- 〔第11回〕 行政事件訴訟概説（2）―義務付け訴訟、差止め訴訟、当事者訴訟、民衆訴訟〈住民訴訟〉について。
- 〔第12回〕 期末試験および講義全体の総括
- 〔その他〕 小テスト

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・櫻井敬子・橋本博之『行政法〔第5版〕』（弘文堂、2016年）
- ・中原茂樹『基本行政法〔第3版〕』（日本評論社、2018年）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ 行政法総論〔第6版〕』（有斐閣、2017年）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法〔第6版〕』（有斐閣、2018年）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ 行政法総論〔第6版〕』（有斐閣、2015年）
- ・原田尚彦『行政法要論〔全訂第7版補訂2版〕』（学陽書房、2012年）
- ・芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）
- ・宇賀克也他編『行政法判例百選Ⅰ〔第7版〕（別冊ジュリスト235）』（有斐閣、2017年）
- ・宇賀克也他編『行政法判例百選Ⅱ〔第7版〕（別冊ジュリスト236）』（有斐閣、2017年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

「行政法」は「法律学」の中では、応用科目に属する。そのため、「憲法」、「民法」、「刑法」といった基幹的な科目を履修中であることが望ましい。また、行政訴訟との関連では、「民事訴訟法」も履修中であることも望ましい。とはいえ、例年、少数ではあるが、経済学部履修者もいらっしゃるの、基礎的な法律学の内容もフォローする予定である。学習する範囲が広いので、毎回受講後の復習は必要不可欠である。また、担当者が事前に予習を課した内容については、必ず予習しておくこと。

◆成績評価方法

スクーリングにすべて出席したことを前提として期末試験により評価する。欠席は原則として認めない。病欠や仕事でも例外はない（但し、やむを得ない場合は例外を認める。速やかに教員に申告すること。）。期末試験を重視する。場合によっては、小テストを実施するか、または小レポート課題などを課した場合はそれらについても評価対象として加点する。くれぐれも欠席しないこと。

科目 法制史

2単位

担当 講師 三田奈穂

本講義では、古代から近代にかけての日本法の歴史を学ぶ。さまざまな法律が制定され、直接あるいは間接的に法と接する機会が多くなった現代社会において、その「ルーツ」について考えることはとても大切なことといえる。講義では、歴史的な法がどのような社会で成立したものを学びながら、現代につながる法の根源を考察する。

現代法の直接的な淵源は明治時代（近代）に求められるが、新政府の政体は「王政復古」に基づくものであり、復古の範とされた古代の律令国家に関する知見を深めることは間接的に重要である。また、長く続いた武家政権下での法も独自の変化を遂げている。本講義では、幅広い法の歴史を扱う。

〔第1回〕 ガイダンス：法制史という学問領域について

古代法1：法のはじまり

〔第2回〕 古代法2：憲法十七条と中国法の継受

〔第3回〕 古代法3：中国律令の概要

〔第4回〕 中世法1：社会身分と法

〔第5回〕 中世法2：御成敗式目と鎌倉幕府の裁判

〔第6回〕 中世法3：戦国期の喧嘩両成敗法

〔第7回〕 近世法1：江戸期の法に関する基礎知識

〔第8回〕 近世法2：公事方御定書と徳川幕府の裁判

〔第9回〕 近世法3：江戸の民事法一般

〔第10回〕 近代法1：大日本帝国憲法制定の道のり

〔第11回〕 近代法2：刑法の近代化

〔第12回〕 近代法3：法典論争

到達度確認試験

〔その他〕 コメントシートの提出

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・浅古弘・植田信廣・神保文夫・伊藤孝夫『日本法制史』（青林書院、2010年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

高校卒業程度の日本史および法学入門の知識があることが望ましい。

◆成績評価方法

抜き打ちで実施するコメントシートおよび最終日の到達度確認試験の総合評価とする。

科目 社会学特殊

2単位

担当 講師 鈴木慶孝

◆講義内容

〔授業の概要・目的〕

現代の国民国家は、グローバリゼーションの進展とともに可視化した移民や難民、そしてマイノリティー集団の存在により、その同質性を失いつつある。他者への不寛容や排除が常態化する時代において、国民の大多数がムスリムでありながら、西洋近代的な国民国家を樹立したトルコ共和国もまた、国内の多様性の受容に逡巡している。

本講義の目的は、多民族帝国から国民国家へと移行し、その地域本来の歴史的多様性ゆえに国民社会に亀裂が生じているトルコ共和国の国民統合政策の検証を通じて、日本を含めた多くの国民国家が経験している多様性の受容に向けた諸課題を提示し、それらを議論するための機会の場を提供することにある。

- 〔第1回〕 イントロダクション
 〔第2回〕 トルコ共和国の誕生
 〔第3回〕 トルコ・ナショナリズムの矛盾
 〔第4回〕 世俗国家の宗教機関をめぐる諸問題
 〔第5回〕 トルコ国内のムスリム・マイノリティをめぐる諸問題
 〔第6回〕 「不純なムスリム」をめぐる諸問題
 〔第7回〕 クルド人をめぐる諸問題
 〔第8回〕 エルドアン政権と民主化をめぐる諸問題
 〔第9回〕 「トルコ人・トルコ性」をめぐる諸問題
 〔第10回〕 国境を超えるトルコの国民統合政策
 〔第11回〕 国民国家が直面する諸課題
 〔第12回（最終回）〕 試験と総括

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・設楽國廣『ケマル・アタテュルク―トルコ国民の父』（山川出版社、2016年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

トルコに関する事前知識は必要ないが、参考文献を含め、事前にトルコ関連書籍に目を通してもらえると、講義内容がより理解できる。

◆成績評価方法

最終回の試験による。

科目 マス・コミュニケーション論 2単位

担当 講師 山口 仁

マス・コミュニケーションに関する様々な概念や理論の理解を深めることを目的とする。前半はコミュニケーションや政治社会に関する基本的な考え方を、後半はマス・コミュニケーションに関する理論や研究アプローチに関する解説を行っていく。

- 〔第1回〕 コミュニケーションの基本概念①：社会関係と社会過程。
 〔第2回〕 コミュニケーションの基本概念②：コミュニケーション研究の研究対象の拡大。
 〔第3回〕 コミュニケーションの基本概念③：情報環境とメディア
 〔第4回〕 コミュニケーションと社会構造
 〔第5回〕 近代社会とマス・コミュニケーション
 〔第6回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷①：弾丸効果モデル～限定効果モデル
 〔第7回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷②：強力効果モデル
 〔第8回〕 マス・コミュニケーションの効果・影響モデルの変遷③：強力影響・機能モデル
 〔第9回〕 政治とコミュニケーション：多次元的権力観に基づくコミュニケーションのとらえ方
 〔第10回〕 マス・コミュニケーション論とジャーナリ

ズム論①：規範論としてのジャーナリズム論

〔第11回〕 マス・コミュニケーション論とジャーナリズム論②：社会過程論としてのジャーナリズム論

〔第12回〕 総括・解説

◆テキスト

- ・大石裕『コミュニケーション論』（通信テキスト、2016年、法学部Ⅲ年度②配本）

◆参考文献

- ・山口仁『メディアがつくる現実、メディアをめぐる現実』（勁草書房、2018年）

◆成績評価方法

最終日の試験による。

科目 政治思想論

2単位

担当 法学部教授 堤林 剣 / 講師 梅澤佑介

この講義では、古代から近代までの西洋における政治思想の歴史を概観します。原則として各講義あたり1人か2人ずつの思想家をとり上げ、その時代背景および政治思想の全体像を紹介し、その歴史的意義について考察します。それぞれの思想家の政治思想を内面的に理解することを通じて、現代を生きる私たちが当たり前のものとして受け入れている常識や価値観が実は普遍的なものではなく、歴史的に形成された偶然的なものであることを認識することにより、現代の価値観や常識を相対化する視座を獲得することを目指します。基本的にテキストに沿って講義を進めるため、事前にテキストの該当箇所を読んでくると、講義に対する理解が深まるでしょう。

- 〔第1回〕 イントロダクション
 〔第2回〕 プラトン
 〔第3回〕 アリストテレス
 〔第4回〕 古代ローマ、中世ヨーロッパの政治思想
 〔第5回〕 マキアヴェリ
 〔第6回〕 ホッブズ
 〔第7回〕 ロック
 〔第8回〕 ルソー
 〔第9回〕 カント、ヘーゲル
 〔第10回〕 ベンサム、ミル
 〔第11回〕 その後
 〔第12回〕 総括・試験

◆テキスト

- ・堤林剣『政治思想史』（通信テキスト、2016年、法学部Ⅲ年度①配本）

◆参考文献

- ・宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

特にありません。

◆成績評価方法

最終日の試験により評価します。

科目 国際政治論

2単位

担当 講師 李 錫敏

この授業では、ジョセフ・ナイとデイヴィッド・ウェルチの『国際紛争—理論と歴史』を輪読して国際紛争と協調に関する基礎知識を習得した上で、事例研究として核拡散問題を取り上げて国際政治に関する理解を深めていきます。輪読は、毎回1～2名の報告者と1名の討論者を決め、まず報告者が作成したレジュメの口頭報告を行い、その後、討論者が章末の「学習上の論点」から選んだ論点（2点）に関して自分の意見をまとめて報告する方法で行います。事例研究は講義形式で行いますが、とり扱った問題に関してディスカッションする時間を設けます。

〔第1回〕 イントロダクション

〔第2回〕 第1章 世界政治における紛争と協調には一貫した論理があるか？

〔第3回〕 第2章 紛争と協調を説明する一知の技法

〔第4回〕 第3章 ウェストファリアから第一次世界大戦まで

〔第5回〕 第4章 集団安全保障の挫折と第二次世界大戦

〔第6回〕 第5章 冷戦

〔第7回〕 第6章 冷戦後の紛争と協調

〔第8回〕 第8章 グローバリゼーションと相互依存

〔第9回〕 第9章 情報革命と脱国家主体

〔第10回〕 核拡散問題に関する事例研究（1）
— キューバミサイル危機〔第11回〕 核拡散問題に関する事例研究（2）
— インド、パキスタン、リビア、イラク〔第12回〕 核拡散問題に関する事例研究（3）
— イラン、北朝鮮

◆ テキスト

・ジョセフ・S.ナイ・ジュニア、デイヴィッド・A.ウェルチ（田中明彦、村田晃嗣訳）『国際紛争—理論と歴史〔原書第10版〕』（有斐閣、2017年）

◆ 参考文献

テキストの巻末にある「さらに読み進む人のために」に掲載されている文献リストを参考にしてください。

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

初回の授業で各回の報告者と討論者を決めますので、受講者は必ず参加してください。毎回テキストを読んで授業に臨むようにしてください。

◆ 成績評価方法

出席10% 報告30%、議論への参加20%、期末レポート40%

科目 政治理論

2単位

担当 講師 慶 済姫

政治学は基本的に権力に関する学問ともいえます。本講義の目的は、権力を中心にする政治学を理解するために、基礎的な政治理論とその政治理論を活用した事例を概観することにあります。講義では、現在民主主義の権力の元である市民の意思決定をコントロール

する政治意識に関する理論、有権者や政治家の政治的な決定を行う行動に関する理論およびその事例などを考察します。

〔第1回〕 オリエンテーション

- 政治と権力
- 政治学の主要分野
- 本講義の構成

〔第2回〕 権力とイデオロギー1

- イデオロギーの概念
- 日本、アメリカ、韓国におけるイデオロギーの区分
- 自由主義の展開1

〔第3回〕 権力とイデオロギー2

- 自由主義の展開2
- 福祉国家論
- 新自由主義

〔第4回〕 権力とイデオロギー3

- 民主主義論
- エリート主義
- 多元主義

〔第5回〕 政治過程論1

- 政治過程の構成要因
- 組織的アクター（政党、利益団体）と政治理論
- 個人的アクター（政治家、有権者）と政治理論

〔第6回〕 政治過程論2

- 政治家と政治（理論と実証）：テキスト

〔第7回〕 公共選択論1

- 公共選択論の概念
- 合理的選択理論
- 選挙制度論：テキスト

〔第8回〕 公共選択論2

- 選挙制度の実証分析：テキスト

〔第9回〕 公共選択論3

- 投票行動の理論：テキスト

〔第10回〕 公共選択論4

- 投票行動の実証分析：テキスト

〔第11回〕 地方自治1

- 大都市制度の例：テキスト

〔第12回〕 地方自治2

- 財政調整・道州制：テキスト
- 総括

〔その他〕 小テスト

◆ テキスト

・小林良彰他『代議制民主主義の計量分析』（木鐸社、2016年）

◆ 参考文献

講義の中で紹介する。

◆ 成績評価方法

最終日の試験による。

科目 政治過程論

2単位

担当 講師 池田豊彦

明治以降の中央集権制度が疲弊して社会環境の変化

に対応できなくなり、住民に身近な政治・行政制度への移行を求める観点から地方分権改革が進展してきた。地方自治・地方分権を切り口に、制度論から自治体改革をめぐる実態を含めて検証し、現代日本の政治過程を考察する。各回の講義概要は以下のとおり。

- 〔第1回〕 イントロダクションー社会病理現象と自治体の役割の拡大
 〔第2回〕 戦後の地方自治制度と分権型社会
 〔第3回〕 地方財政の構造と課題
 〔第4回〕 揺れる地方行政体制
 〔第5回〕 「極点社会」の到来ー市町村は消滅するのか
 〔第6回〕 道州制と大都市制度改革
 〔第7回〕 首長の権能と地方の時代
 〔第8回〕 地方議会の権能とその改革
 〔第9回〕 ローカル・マニフェストとガバナンス
 〔第10回〕 「新しい公共」と市民の台頭
 〔第11回〕 直接民主主義の可能性
 〔第12回〕 総括

◆テキスト

指定なし。講義時にレジュメとプリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・西尾勝『未完の分権改革』（岩波書店、1999年）
- ・片山善博『日本を診る』（岩波書店、2010年）
- ・松本英昭『自治制度の証言』（ぎょうせい、2011年）
- ・江藤俊昭『自治体議会学』（ぎょうせい、2012年）
- ・神野直彦・金子勝編著『地方に税源を』（東洋経済新報社、1998年）など、地方自治・地方分権に関するもの。
- ・増田寛也編著『地方消滅』（中公新書、2014年）

◆受講上の要望または受講上の前提条件

特になし。

◆成績評価方法

最終日の試験を基本に、講義出席率を勘案する。

科目 日本政治史

2単位

担当 講師 小田義幸

「歴史は過去のことだから」と言って歴史を敬遠するかもしれませんが、過去を学ぶことは現在・将来を生きるためには欠かせません。歴史認識をめぐる問題や過去の歴史に起因する問題が国内外で大きく取り上げられており、テレビや新聞などで日本の近現代史に接する機会も多くなっています。その一方で、学校などで近現代史を学ぶ機会が少ないため、先述の問題が現在の日本にとっていかに重要であるかが認識できず、自分自身の意見を持つことさえもままなりません。本講義では、近現代の日本政治外交史上、その後の日本の運命を左右する、もしくは、現在に至るまで影響が及ぶ重要な論点を取り上げ、今の価値観や見方にとらわれずに歴史を見つめ直し、歴史に関する知識を得るだけでなく、歴史の見方や歴史を学ぶ意味についても身につけてもらおうつもりです。

〔第1回〕 日本近現代史の見方について考える明治維新はなぜ成功したのか？

〔第2回〕 戦前、憲法上明文化されていない元老が政

治を仕切ることになったのはなぜか？

〔第3回〕 日露戦争はなぜ勃発したのか？ 日露戦争はその後の日本に何を残したのか？

〔第4回〕 日韓併合は合法or違法？ 日本統治下における朝鮮半島の実態とは？

〔第5回〕 第一次世界大戦は近代日本に何をもたらしたのか？

〔第6回〕 明治憲法体制の下でなぜ政党政治が実現したのか？

〔第7回〕 軍人によるテロ・クーデターが1930年代前半に相次いだのはなぜか？

〔第8回〕 昭和戦前期の日本が対中国政策で失敗を犯したのはなぜか？

〔第9回〕 近衛文麿首相がアメリカとの戦争を回避できなかったのはなぜか？

〔第10回〕 自民党が38年間にわたって政権を担当し続けることができたのはなぜか？

〔第11回〕 北方領土問題はなぜ未解決のままなのか？ 慰安婦・請求権問題をめぐって日韓関係がこじれるのはなぜか？

〔第12回〕 総括・試験

〔その他〕 課題・レポート

◆テキスト

プリントを適宜配布する。

◆参考文献

- ・鳥海靖『もういちど読む山川日本近代史』（山川出版社、2013年）
- ・北岡伸一『日本政治史 外交と権力 増補版』（有斐閣、2017年）
- ・門松秀樹『明治維新と幕臣 新政府を底辺で支えた「ノンキャリア」たち』（中央公論新社、2014年）
- ・井上勝生『日本の歴史18 開国と幕末改革』（講談社、2009年）
- ・五百旗頭真編『日米関係史』（有斐閣、2008年）
- ・北岡伸一『日本の近代5 政党から軍部へ 1924～1941』（中央公論新社、2013年）
- ・戸部良一『シリーズ日本の近代 逆説の軍隊』（中央公論新社、2012年）
- ・佐々木隆『日本の歴史21 明治人の力量』（講談社、2010年）
- ・伊藤之雄『日本の歴史22 政党政治と天皇』（講談社、2010年）
- ・有馬学『日本の歴史23 帝国の昭和』（講談社、2010年）
- ・河野康子『日本の歴史24 戦後と高度成長の終焉』（講談社、2010年）
- ・古川隆久『昭和史』（筑摩書房、2016年）
- ・中村隆英『昭和史（上）1926-45』（東洋経済新報社、2012年）
- ・中村隆英『昭和史（下）1945-89』（東洋経済新報社、2012年）

※その他の文献については授業中に適宜紹介します。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

初学者でも受講可能ですが、歴史から遠ざかっている受講者には、参考文献にある『もういちど読む山川日本近代史』や『昭和史』を予め一読することをお勧めします。

◆ 成績評価方法

最終日の試験（60%）＋小レポートなど（40%）
※1000～2000字程度の小レポートを2回ほど提出してもらう予定です。

科目 日本政治論

2単位

担当 法学部教授 小川原正道 / 講師 門松秀樹

本講義では、日本における統治を考える上で欠くことのできない重要な要素である政治と行政、そして両者をつなぐ政官関係の観点から、日本政治を考察したいと考えています。

本講義は、日本の政治・行政・政官関係のそれぞれの論点について、歴史的な視点を踏まえ、その問題の原因や経緯・展開がいかなるものであるかということも含めて論ずることで、現在の日本政治が直面している問題に対する理解を深めていくことを目的としています。

〔第1回〕 日本の憲法

日本の憲法について、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点、共通点に着目して考察します。

〔第2回〕 国会

日本の議会について、各国と比較しながらその機能について考察します。

〔第3回〕 日本の政党

日本の政党について、戦後の政党制の変遷に着目して分析します。

〔第4回〕 利益集団

日本の利益集団について、その運動形態の特徴に着目しながら考察します。

〔第5回〕 日本の行政（1）

日本の行政について、「割拠主義」（セクショナリズム）に着目して、その特徴を分析・考察します。

〔第6回〕 日本の行政（2）

日本の官僚制度における特徴である「キャリア制度」の概要と、「天下り」との関係などの問題点について分析・考察します。

〔第7回〕 日本の行財政改革（1）

日本の行財政改革のうち、占領期における「戦後改革」について、その概要を説明した上で分析・考察を進めます。

〔第8回〕 日本の行財政改革（2）

成果を収めることができた日本の行財政改革として、鈴木善幸内閣・中曽根康弘内閣の下で展開された「第2次臨時行政調査会」（「中曽根行革」）について、その概要を説明します。

〔第9回〕 日本の行財政改革（3）

第8回に続き、「第2次臨時行政調査会」（「中曽根行革」）に関する分析・考察を進めます。

〔第10回〕 日本の政官関係（1）

日本の政官関係について、行政（官僚）の在り方とその変化について概要を説明し

ます。

〔第11回〕 日本の政官関係（2）

「官僚主導」や「政治主導」など、政官関係をめぐる様々な議論を念頭に置いた上で、あるべき政官関係について分析・考察を進めます。

〔第12回〕 試験・総括

講義内容に関する試験を実施します。

◆ テキスト

プリントを適宜配布する。

◆ 参考文献

- ・大石眞監修／縣公一郎・笠原英彦編著『なぜ日本型統治システムは疲弊したのか—憲法学・政治学・行政学からのアプローチ』（ミネルヴァ書房、2016年）
- ・笠原英彦・桑原英明編著『日本の政治と行政』改訂版、（芦書房、2015年）
- ・大山耕輔監修／笠原英彦・桑原英明編著『公共政策の歴史と理論』（ミネルヴァ書房、2013年）

◆ 受講上の要望、または受講上の前提条件

特にありません。

◆ 成績評価方法

出席および最終日に実施する試験の結果によるものとします。

科目 地域研究（ラテンアメリカを事例に、地域研究の方法）

2単位

担当 法学部教授 出岡直也 / 講師 本谷裕子 / 講師 山脇千賀子

ラテンアメリカ諸国の三つの現象に関して、主に文化人類学的なアプローチと政治学的なアプローチで解釈・分析し、地域研究を行う際の異なるアプローチの違いやその特徴について考察する。それによって、地域研究におけるフィールドワークと理論・概念の意義についても考察することになる。

〔第1回〕 講義全体の目的、テーマを示し、取り上げられるアプローチに関するイントロダクションを行い、以後の講義の内容を概観する。

〔第2回〕 ラテンアメリカ諸国の選挙で重要なクライエントリズムを中心に、選挙・投票に関する政治学の諸理論を紹介し、それをラテンアメリカ諸国の事例に当てはめて検討する。

〔第3回〕 グアテマラの村における選挙について紹介し、文化人類学的な考察・分析を行う。

〔第4回〕 ペルーにおける選挙について紹介し、都市人類学的・社会学的な考察・分析を行う。

〔第5回〕 グアテマラにおける政治運動・社会運動に関し、文化人類学的な考察・分析を行う。

〔第6回〕 ペルーにおける政治運動・社会運動に関し、文化人類学的・社会学的な考察・分析を行う。

〔第7回〕 政治運動・社会運動に関する政治学の諸理論により、先に取り上げられた二つの事例の解釈を試みる。

〔第8回〕 ゲリラ運動や政治的暴力に関する政治学の諸理論を紹介し、それらによるラテンアメ

- リカ諸国に事例の解釈を試みる。
- 〔第9回〕 グアテマラにおけるゲリラ運動と政治的暴力を紹介し、それに関して文化人類学的な考察・分析を行う。
- 〔第10回〕 ペルーにおけるゲリラ運動と政治的暴力を紹介し、それに関して文化人類学的な考察・分析と社会的な考察・分析を行う。
- 〔第11回〕 紹介された異なるアプローチを比較し、それぞれの特徴を明らかにするための討論を行う。
- 〔第12回（最終回）〕 試験・総括
- ◆ テキスト
プリントを適宜配布する。

◆ 成績評価方法

受講者数によっては平常点も加味するが、基本的には最終日の試験による。

科目 総合講座 「総情報化社会と法」 2単位

コーディネーター 法学部教授 佐藤拓磨
法学部教授 大屋雄裕 / 講師 尾崎愛美 / 講師 笠原毅彦
担当 講師 張 睿暎 / 法学部教授 丸山絵美子 / 法学部教授 柳 明昌
法務研究科教授 山本龍彦 / 法学部教授 山本爲三郎

講義要綱は79頁を参照してください。

他学部開講共通科目

以下の科目は他学部開講の科目ですが、法学部専門教育科目として卒業要件に含むことができる科目です。

科目 哲学（専門） 2単位

担当 講師 岡嶋隆佑 / 講師 戸澤幸作

講義要綱は文学部専門教育科目「哲学（専門）」（52頁）を参照してください。

科目 社会心理学（専門） 2単位

担当 講師 村山 陽

講義要綱は文学部専門教育科目「社会心理学（専門）」（54頁）を参照してください。

科目 図書館・情報学 2単位

担当 講師 長谷川豊祐

講義要綱は文学部専門教育科目「図書館・情報学」（57頁）を参照してください。

科目 経済原論（ミクロ経済学） 2単位

担当 経済学部教授 穂刈 享

講義要綱は経済学部専門教育科目「経済原論（ミクロ経済学）」（61頁）を参照してください。

科目 計量経済学 2単位

担当 講師 金 志映

講義要綱は経済学部専門教育科目「計量経済学」（61頁）を参照してください。

科目 社会思想史 2単位

担当 講師 鈴木 平

講義要綱は経済学部専門教育科目「社会思想史」（62頁）を参照してください。

科目 社会政策 2単位

担当 講師 齋藤香里

講義要綱は経済学部専門教育科目「社会政策」（62頁）を参照してください。

科目 社会福祉論 2単位

担当 講師 永井攻治

講義要綱は経済学部専門教育科目「社会福祉論」（63頁）を参照してください。

科目 経済政策 2単位

担当 講師 野口尚洋

講義要綱は経済学部専門教育科目「経済政策」（63頁）を参照してください。

科目 金融論 2単位

担当 講師 溝口哲郎

講義要綱は経済学部専門教育科目「金融論」（63頁）を参照してください。

科目	国際経済学	2単位
----	-------	-----

担当	講師 久野 新
----	---------

講義要綱は経済学部専門教育科目「国際経済学」(64頁)を参照してください。

科目	世界経済論	2単位
----	-------	-----

担当	講師 宮崎礼二
----	---------

講義要綱は経済学部専門教育科目「世界経済論」(64頁)を参照してください。

科目	経済地理	2単位
----	------	-----

担当	講師 花島誠人
----	---------

講義要綱は経済学部専門教育科目「経済地理」(65頁)を参照してください。

科目	経営学	2単位
----	-----	-----

担当	商学部教授 菊澤研宗
----	------------

講義要綱は経済学部専門教育科目「経営学」(66頁)を参照してください。

科目	産業関係論	2単位
----	-------	-----

担当	商学部教授 八代充史
----	------------

講義要綱は経済学部専門教育科目「産業関係論」(66頁)を参照してください。

科目 総情報化社会と法

2単位

コーディネーター 法学部教授 佐藤拓磨
 担当 法学部教授 大屋雄裕 / 講師 尾崎愛美 / 講師 笠原毅彦
 講師 張 睿暎 / 法学部教授 丸山絵美子 / 法学部教授 柳 明昌
 法務研究科教授 山本龍彦 / 法学部教授 山本爲三郎

近年、人口知能（AI）の進化、情報解析技術の向上、電子取引の普及、ソーシャル・ネットワーキング・サービス（SNS）の日常生活への浸透などに伴い、新たな法的問題が生じている。本講座では、法哲学、憲法、民法、商法、民事訴訟法、刑法、刑事訴訟法、知的財産法の研究者が、情報化の進展によりそれぞれの法分野で生じている今日的な問題について講義する。

- 〔第1回〕 佐藤拓磨 イン트로ダクション／インターネット上の名誉毀損的行為と刑法
- 〔第2回〕 大屋雄裕 アーキテクチャとナッジ規制手法の発展と変容
- 〔第3回〕 大屋雄裕 AIと権利と義務—自動運転車の事故には誰が責任を負うのか
- 〔第4回〕 山本龍彦 AIと憲法（1）——プライバシーのゆくえ
- 〔第5回〕 山本龍彦 AIと憲法（2）——民主主義のゆくえ
- 〔第6回〕 尾崎愛美 監視型捜査の最新動向：GPS捜査最高裁判決を踏まえて
- 〔第7回〕 丸山絵美子 情報化社会と民法・消費者法
- 〔第8回〕 張 睿暎 SNSにまつわる著作権
- 〔第9回〕 山本爲三郎 会社法とIT化
- 〔第10回〕 柳 明昌 ICOに対する法規制のあり方を考える
- 〔第11回〕 笠原毅彦 裁判のIT化
- 〔第12回〕 佐藤拓磨 試験・講評

◆テキスト

指定しない。

◆参考文献

各担当者が、授業内で、適宜紹介する。

◆受講上の要望、または受講上の前提条件

受講の際は、法令集（六法）を持参することが望ましい。

◆成績評価方法

最終日の試験による。なお、追試験は行わない。